

喜界町 観光振興計画



平成29年3月

喜 界 町

目次

はじめに

第1章 観光振興計画策定にあたって 1

- 1 計画策定の目的
- 2 計画の位置づけと計画期間

第2章 喜界町と奄美群島の概況 3

- 1 位置と地勢、気象
- 2 人口と産業
- 3 交通
- 4 歴史と文化

第3章 喜界町の観光の現状と課題 6

- 1 喜界町の観光をとりまく現状
- 2 喜界町における観光関連調査結果
- 3 喜界町の観光の課題と分析

第4章 喜界町を目指す観光と基本方針 26

- 1 喜界町の観光の基本理念
- 2 喜界町の観光の基本方針
- 3 喜界町の観光の基本施策
- 4 喜界町観光振興計画体系図

第5章 喜界町観光振興計画の実現へ向けて 39

- 1 推進体制の整備

■ 参考資料 ■

参考資料1 喜界町観光振興計画策定概要

参考資料2 各種アンケート調査票

参考資料3 集落資源調査リスト

はじめに

喜界町は、奄美大島の東約 25 km に位置する喜界島にある一島一町のまちとして、これまで、本計画の上位計画である『喜界町総合振興計画』に基づき、地域活性化に向けた様々な取組を行いながら、「**きらりとかがやくい島**」の実現を掲げてまちづくりを進めてきました。

しかし、全国的に人口減少や少子高齢化が急速に進むなか、地域経済規模の縮小など人口減少が地域の将来に与える影響を考えると、これからの本町の発展を目指していくためには、交流人口の拡大により様々な面での活性化を図っていく必要があります、観光を通じたまちづくりへの取組が重要になってきます。

観光は、幅広い産業に関連する非常に裾野の広い総合産業であり、地域経済を引っ張る大きな可能性を秘めています。また、多くの人々が訪れることにより、自分たちのまちを見つめ直す機会につながることも魅力の一つです。島全体に活気が満ち心豊かに暮らせる町にするために、まさに「観光」は将来へ向けた重要なテーマと考えており、喜界町の活性化に向け柱の一つに据えて取り組んでいく必要があります。

喜界島は、亜熱帯性・海洋性の温暖で豊かな自然環境を有し、世界でも有数の速さで隆起するサンゴ礁の島であり、オオゴマダラやアサギマダラなど数多くの蝶が飛び交う、優れた自然風景を誇る美しい島です。

また、魅力ある集落景観や個性的な伝統文化、日本一の生産量を誇る白ゴマや島固有の在来種である柑橘類やソラマメなど豊かな農業資源も有しています。

そして、人情味豊かで、これらの魅力を今でも連綿と守り受け継いできた島の人々がおり、集落ごとの共助の精神が息づいていることも大きな財産です。

喜界町における観光振興に向けた取組は、それら魅力ある資源を島全体で守り磨いて輝かせ、島全体に活気が満ち心豊かに暮らせる魅力あるまちにしていくことにあります。そして、その魅力を、ふれあいによる交流を中心とした、持続可能で息の長い取組により伝えていくことで、訪れた人に言葉では表せない島の良さを感じ取ってもらい、喜界島を好きになり、また行きたいと思ってもらえるような島になることを目指しています。

また、訪れた人との交流を通じて島の魅力を見つめ直し、ふるさとへの誇りと愛着が生まれる。そんな取組につながっていくことを期待しています。

喜界島は、鹿児島から南に 380 km 離れた太平洋上に浮かぶ周囲 48 km の小さい島です。この小さな島を光り輝かせて、多くの人々が憧れをもって訪れる「きらりとかがやくい島」喜界町の実現を目指して、町民をはじめ多くの皆様と共に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしく願います。

平成 29 年 3 月

喜界町長 川島 健勇

第1章

観光振興計画策定にあたって

1 計画策定の目的

我が国では、平成19年1月に観光立国推進基本法が施行され、観光は21世紀における日本の重要な政策の柱と位置づけられたところです。

同法に基づき、平成19年6月に観光立国推進基本計画が閣議決定され、その後平成24年3月、平成29年3月にそれぞれ改定されており、地域が持つ特色を生かした魅力ある観光地づくりの取組を推進するとともに、それぞれの地域の伝統、文化などの魅力を内外に発信して国際・国内観光を振興するなど、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進が図られ、これらの取組により、訪日観光客数は、平成19年の835万人から平成28年には2,404万人に大幅に増加しています。

鹿児島県では、平成21年3月に、県民一人一人が「観光立県」に対する理解を深め、担い手としての認識を育み、県、市町村、県民、観光関係事業者及び観光関係団体の共生・協働による「観光立県」の実現に向けて、それぞれの役割や施策の基本となる事項を定めた「観光立県かごしま県民条例」が制定されたところです。同条例に基づき平成21年3月に基本方針が策定され、その後平成27年3月に改定されるなど、県民、観光関係事業者、観光関係団体と一体となって「観光立県かごしま」の実現を目指し各般の施策が進められてきており、この間、延べ宿泊者数は、平成22年の504万人から平成28年には607万人（速報値）に、外国人延べ宿泊者数は、平成22年の13万人から平成28年には44万人（速報値）に増加しています。

このように、国・県においては計画等に基づいた施策の推進により、交流人口の増加に向け着実な成果が現れてきているところです。

こういった国・県の動向を踏まえ、本町においても、喜界島の亜熱帯性・海洋性の温暖で豊かな自然環境、個性的な伝統文化など多様な資源に恵まれた地域的特性を生かし、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録へ向けた広域的な取組も見据えながら、多様化する観光ニーズに対応しうる戦略的な観光振興施策の展開を図っていく必要があり、人口減少・少子高齢化が急速に進展する中、交流人口の拡大により地域の活性化につなげていくことが求められています。

また、観光振興施策を効果的に実施するためには、関係者間の幅広い連携が行われるよう、推進体制の構築も不可欠と考えています。

このようなことから、「喜界町観光振興計画」は、本町の交流人口拡大に向け、これら本町を取り巻く環境や課題等に的確に対応し、関係者間の協力のもと中長期的視点に立って観光振興に取り組むことを目的として策定するものです。

2 計画の位置づけと計画期間

「喜界町観光振興計画」（以下、本計画）は、計画策定のために実施した調査および喜界町観光振興計画策定委員会による検討結果にもとづき、今後の喜界町の観光振興へ向けた方針や目指すべき方向性、計画を実現するための具体的な取組内容と島内関係者による実施体制等について取りまとめたものです。

本計画は、平成 29 年度から平成 33 年度の 5 年間を計画期間としています。

第2章

喜界町と奄美群島の概況

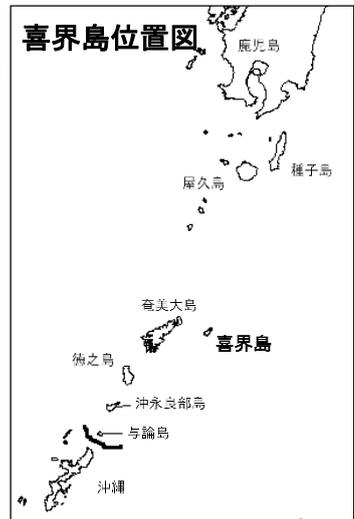
1 位置と地勢、気象

喜界町を擁する喜界島は奄美群島最北に位置し、鹿児島から南に約380km、奄美大島の東方約25kmの洋上、北緯28度19分、東経130度00分の地点にあります。

喜界島は、南南西から北東が14.0km、南北の最長が7.75km、周囲48.6km、総面積56.82km²で、隆起サンゴ礁が地質の大半を占め、現在も年間数ミリメートルの規模で隆起し続けています。島の土地利用は総面積の35.5%にあたる20.20km²が耕地、19.1%にあたる10.85km²が林野となっています。

島の東南から南北に百之台丘陵が連なり、百之台の南端にある七島鼻展望台付近の標高は211.96mで島内の最高地点となっています。島全体の地形は平坦で、本州のような大型の河川は存在しません。

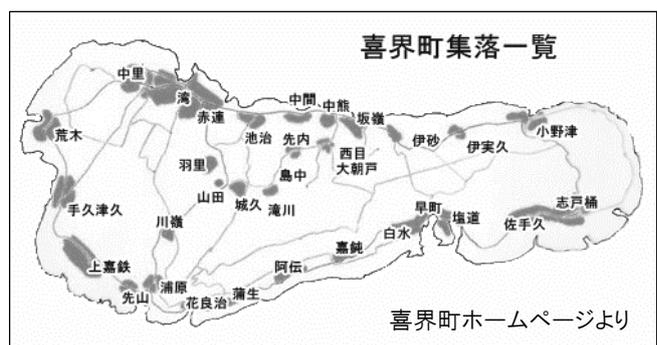
島の気候は他の奄美群島の島と同様、亜熱帯性気候に属し平均気温は21.9℃、年間降水量の平均は1,920.7mmで、日本の平均年降水量の1,718mmを上回っており、年間を通じ温暖で降水量が多いことがわかります。



2 人口と産業

喜界町の行政区分による集落数は43で、その多くが海岸沿いに連なりながら展開し、集落の後背地の殆どが農耕地になっています。

平成28年3月時の総人口は7,375人、世帯数は3,852戸となっており、島の南西に位置する湾集落は、島内最大の集落で、人口は1,300人余りです。



島の基幹産業はサトウキビ栽培を中心とする農業で、白ゴマの生産量は国内一のシェアを誇ります。畜産も盛んで島の畜産物産出額の98%以上を肉用牛が占めています。平成27年の農業粗生産額は、約28億円あまりで、島内の **喜界町の農業粗生産額順位～上位5位～(平成27年)** (千円)

農家の過半数は、専業農家(平成27年時点)という農業の島です。

作物名	サトウキビ	肉用牛	トマト	カボチャ	ゴマ
粗生産額	1,641,245	852,788	119,722	54,314	48,620
構成比	58.1%	30.2%	4.2%	1.9%	1.7%

「喜界町町勢要覧資料編(H28)」による

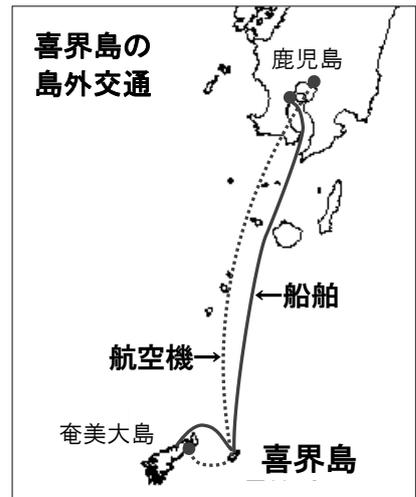
3 交通

喜界町と島外を結ぶ交通手段は、空路と海路の2種類があり、それぞれ定期便が就航しています。

空路は喜界島～鹿児島が1日2往復で約1時間10分、喜界島～奄美大島が1日3往復で約15分、海路は貨客定期フェリーが土、日を除き喜界島～鹿児島間を所要時間約12時間、喜界島～奄美大島間を約2時間、1日1往復しています。島の主要な交通拠点は、空路が喜界空港、海路が湾港もしくは早町港となっています。

一方、島内の交通機関は、島内全域を巡回する3系統の定期路線バス、タクシー、レンタカーの他、レンタサイクルがあります。

路線バスは、「北本線」「南本線」「中央線」のいずれも喜界空港、湾港等の主要な交通拠点や中心市街地、公共施設等と各集落を結んでいます。



喜界町の空路の現況

区間	便数	所要時間
鹿児島→喜界島	1日2便	約1時間15分
喜界島→鹿児島	1日2便	約1時間10分
奄美大島→喜界島	1日3便	約15分
喜界島→奄美大島	1日3便	約15分

喜界町の花路の現況

区間	便数	所要時間
下り便(鹿児島→喜界)	月～金	約11時間
上り便(喜界→鹿児島)	火～土	約12時間
上り便(名瀬→喜界)	火～土	約2時間10分
下り便(喜界→名瀬)	火～土	約2時間

喜界町の路線バスルートの現況

北本線の主要バス停	湾営業所～役場前～空港前～喜界第一ホテル前～湾港前～(北部から南部の各集落)～空港前～湾営業所
南本線の主要バス停	湾営業所～役場前～湾港前～喜界第一ホテル前～空港前～(南部から北部の各集落)～空港前～湾営業所
中央線の主要バス停	湾営業所～役場前～空港前～喜界第一ホテル前～湾港前～(島内中央部の山間の各集落)～空港前～湾営業所

4 歴史と文化

喜界島では、島内各所に古代から近世、近代の歴史に関する様々な遺跡が確認されており、現在もその調査が続けられています。喜界島の歴史を物語る遺物や資料は、遺跡から出土したものだけでなく、島内に残っている構造物などもあり、それらの遺物や歴史的な資料は、琉球列島の歴史を解明するうえでも重要なものであるといわれています。

また、文化的な資源については、八月踊りをはじめとする奄美群島で広く行われている年中行事とともに、旧暦に沿って行われる行事や特定の集落に伝わる行事など喜界島らしい特徴的なものが見られます。

古代の喜界島では、縄文土器や磨製石器が使われ、竪穴式住居が作られていたことが島内の遺跡からわかっています。多くの夜光貝や夜光貝を加工して作られた貝匙も遺跡から出土しています。

本土では室町時代にあたる文正元(1466)年、喜界島は琉球王尚徳よって侵攻され、その後、約 150 年間、琉球国の統治下にありましたが、慶長 14(1609)年、薩摩藩の琉球侵攻によって、琉球から分割され薩摩藩に属することになりました。

藩政時代は、島内に代官所が置かれ、代官の下に大親役と称される役職が整備され島政が行われました。後年、大親役は与人役～横目という役職に変わります。

明治 2(1872)年、代官所が在番所に改められ、明治 19(1886)年になると、湾と早町がそれぞれ村政となり、明治 41(1908)年の島しょ町村制の施行によって湾と早町が合併し、喜界村となりました。

大正 8(1919)年、喜界村と早町村の 2 村に分村し、昭和 16(1941)年の町政施行によって喜界村は、喜界町になりました。昭和 20(1945)年の太平洋戦争当時は、喜界島も空襲に遭い、多くの家屋が焼失しています。

終戦後は、昭和 21(1946)年の連合軍最高司令部覚書により、本土と行政分離され北部南西諸島軍政府が開設され、昭和 25(1950)年に奄美群島政府が置かれた後、昭和 28(1953)年 12 月 25 日、日本に完全復帰をしました。

また、同年施行された町村合併促進法に基づき、昭和 31(1956)年 9 月 10 日に喜界町と早町村が合併し現在の喜界町が誕生しました。

第3章

喜界町の観光の現状と課題

1 喜界町の観光をとりまく現状

我が国の観光は、近年、名所・景勝地をめぐる「見る観光」から、地域住民との交流を通じ地域の暮らしや生活文化への理解を深める「体験する観光」に変容しており、観光のスタイルも従来の団体旅行から少人数グループ旅行や一人旅など個人旅行へと大きく変遷しています。

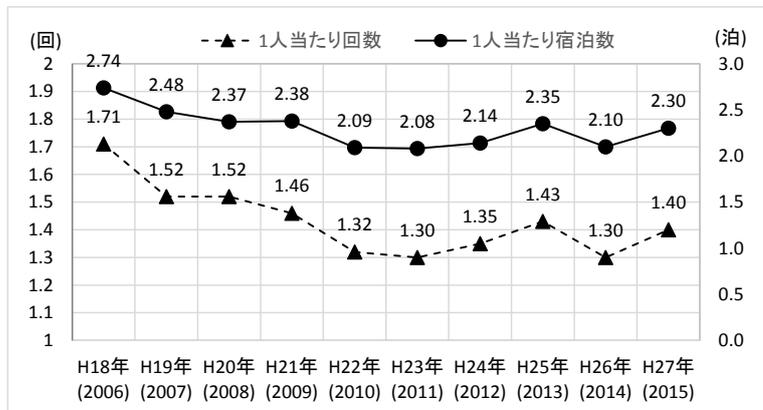
一方、奄美群島では、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録へ向けた自然資源の保護保全やエコツアーガイドの制度整備とともに、観光振興を目的とする取組が、多様な主体により実施されています。奄美群島とその沿岸海域は、平成 29 年 3 月、「奄美群島国立公園」に指定され、世界自然遺産登録への群島内外の動きが急速化しつつあります。また、あまみシマ博覧会、UIO ターン的女子旅、空き家や遊休施設の改修と利活用など交流人口の拡大を目的とする各種の取組が継続的に実施され、観光交流に対する群島内の住民理解や意識醸成が深化する現状にあります。

(1) 国内の旅行者動向

① 国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

H26(2014)年の国民 1 人あたりの国内宿泊観光旅行回数は、消費税増税の影響等で減少したものの、H27(2015)年は、前年の落ち込みの反動もあり、増加に転じています。

- ・資料：国土交通省「観光白書」
- ・H27(2015)年の数値は暫定値

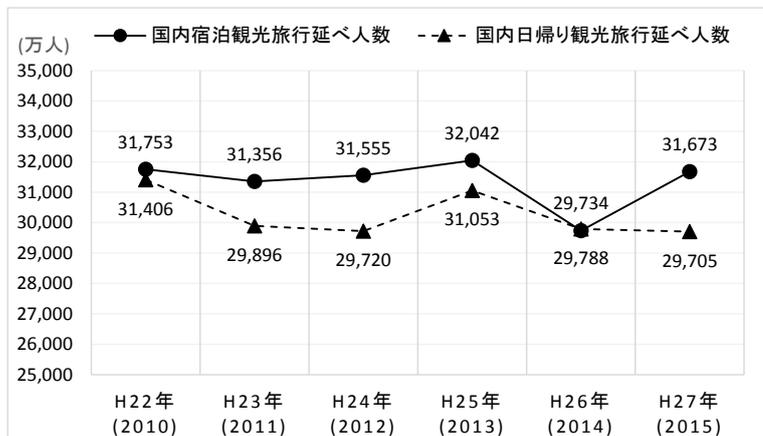


② 国内宿泊観光旅行延べ人数、国内日帰り観光旅行延べ人数の推移

H27(2015)年、国内宿泊旅行に行った人は延べ 3 億 1,673 万人(前年比 6.5%増)でした。増加要因は、北陸新幹線の開業、9月の大型連休等が挙げられます。

一方、日帰り旅行に行った人数は、減少傾向に転じています。

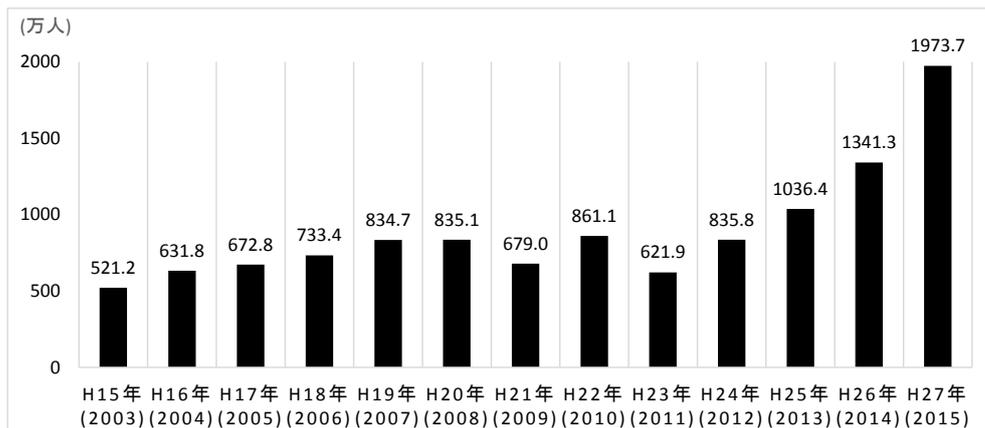
- ・資料：国土交通省「観光白書」
- ・H27(2015)年の数値は暫定値



③ 訪日外国人旅行者数の推移

H27(2015)年の訪日外国人旅行者数は3年連続で過去最高を更新しました。

これは統計を取り始めたS39(1964)年以降最大の伸び率となっています。



日本政府観光局 (JNTO) 資料に基づく

(2) 鹿児島県内及び奄美群島の旅行観光動向

① 鹿児島県の延べ宿泊者数と延べ日帰り客数

H27(2015)年の鹿児島県の観光動向は、全国の観光動向と同様に、訪日外国人客の大幅増加をはじめ、全般的に好調でした。

	平成27年		平成26年		前年比(増減率)	
	延べ宿泊者数(1~12月分)	7,972,730人		7,534,490人		+5.8%
	県外	県内	県外	県内	県外	県内
	5,492,400	2,345,180	5,280,060	2,155,620	4.0%	8.8%
延べ日帰り客数(1~12月分)	14,202,000人		13,332,000人		+6.5%	
	県外	県内	県外	県内	県外	県内
	2,273,000	11,929,000	1,950,000	11,382,000	16.6%	4.8%
合計	22,174,730人		20,866,490人		+6.3%	
	県外	県内	県外	県内	県外	県内
	7,765,400	14,274,180	7,230,060	13,537,620	7.4%	5.4%
外国人延べ宿泊者数	415,730人		266,000人		+56.3%	
	前年比	+56.3%	前年比	+23.8%		

主要因として、9月に大型連休があったことや、地方創生交付金を活用した「国民文化祭開催記念ーかごしまプレミアムお得旅」「海外直行便キャンペーン」等が考えられます。日帰り客も九州新幹線の利用者数が高い水準を維持しており、9月の大型連休、かごしま国民文化祭2015の開催、クルーズ船の入込客増加等の影響を受け、増加したものと考えられます。

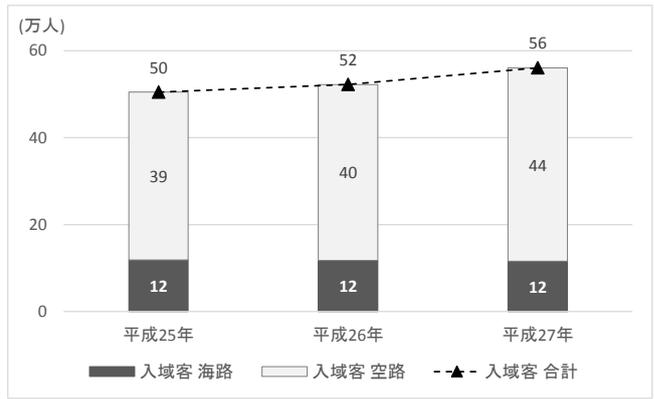
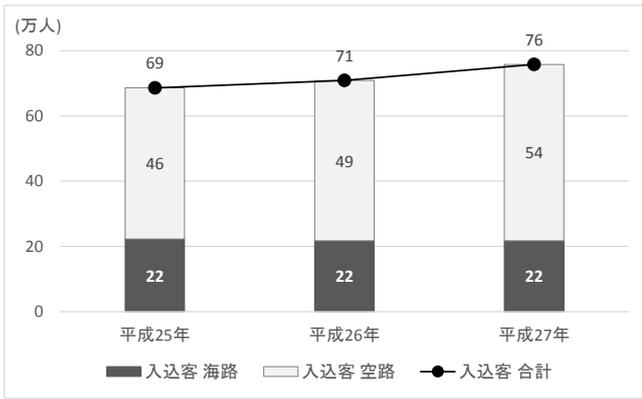
・資料：観光庁「宿泊旅行統計」

② 奄美群島の旅行観光の動向

奄美群島の入込客は、H8(1996)年、80.9万人(群島外からの入域客57.6万人)のピークに達しますが、その後、減少傾向が続き、平成25(2013)年には68.6万人に落ち込みました。

	入込客			入域客		
	合計	海路	空路	合計	海路	空路
平成25年	686,270	222,529	463,741	504,739	118,910	385,829
平成26年	708,763	217,372	491,391	522,286	117,742	404,544
平成27年	757,887	217,589	540,298	560,432	115,825	444,612

しかし、H26(2014)年、パニラエアの就航や奄美群島振興交付金を活用した航空・航路運賃の軽減化、与論島の絶景ブーム等の好影響を受け、H26、27年の入込客数、入域客数は増加傾向に転じています。



奄美群島の県内・県外延べ宿泊者数、延べ日帰り客数は、県外宿泊者数が前年比13.5%の増加であった反面、県内宿泊者数、日帰り客数とも減少しています。

	県外 延べ宿泊者数	県内 延べ宿泊者数	延べ日帰り 客数
平成26年	365,295人	289,374人	265,488人
平成25年	321,975人	295,932人	279,736人
前年比(増減率)	+13.5%	-2.2%	-5.1%

・資料：平成27年度奄美群島の概況(観光)/大島支庁総務企画課

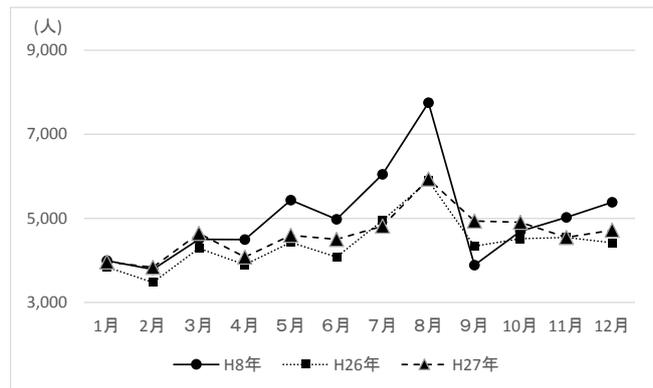
(3) 喜界町の旅行観光動向

① 喜界町の観光の動向

喜界島の観光の動向について、入込客数を比較すると、奄美群島の観光の動向と同様、H8(1996)年にピークに達し、H26、27年に増加傾向がみられます。

月別の入込客数では、5月、7～8月に増加し、2月が最も少ないことがわかります。

・資料：平成27年度奄美群島の概況(観光)/大島支庁総務企画課



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H8年	3,992	3,787	4,499	4,497	5,435	4,978	6,048	7,751	3,886	4,695	5,021	5,383	59,972
H26年	3,843	3,474	4,289	3,896	4,428	4,081	4,950	5,895	4,336	4,514	4,546	4,422	52,674
H27年	3,964	3,836	4,645	4,078	4,595	4,500	4,817	5,935	4,938	4,908	4,547	4,718	55,481

② 喜界町の宿泊施設と収容人数

喜界町内の宿泊施設は15軒で奄美群島全体の宿泊施設の7.0%を占めています。収容人数は、一般客が315人、団体客が340人となっています。

比較対照のため、群島内の宿泊施設数1位の奄美市と2位の与論町の宿泊施設についても表中に記載しています。

	軒数	収容人員(人)	
		一般	団体
奄美群島全体	215	5,800	5,983
喜界町	15	315	340
(構成比)	7.0%	5.4%	5.7%
奄美市	48	1,670	1,825
(構成比)	22.3%	28.8%	30.5%
与論町	38	1,141	1,292
(構成比)	17.7%	19.7%	21.6%

・資料：平成27年度奄美群島の概況(観光)/大島支庁総務企画課

③ 喜界町の年間イベント、行事実施回数

喜界町では、主要なイベントや大規模な行事が年間4回程度開催されていますが、これ以外にも集落で開催している行事や祭礼等もあります。

なお、比較対照のため、近年、来島者の増加傾向が著しい奄美市、与論町についても主要なイベントや行事の年間実施回数を表中に記載しています。

	回数	イベント名称
喜界町	4	喜界町シマ唄・シマゆむた大会、俊寛ジョギング大会、喜界町しま興し祭り、喜界町夏まつり、
奄美市	9	紬の日のつどい、奄美観光桜マラソン、節田マンカイ、奄美市まなび・福祉フェスタ、奄美まつり、あやまる祭り、三太郎まつり、海の道太陽が丘ウォーキング、日本復帰記念の日の集い
与論町	8	ヨロンマラソン、与論十五夜踊り(年間3回)、ヨロンサンゴ祭り、沖縄・与論ヨットレース、生涯学習フェア・与論町文化祭、ヨロン・おきなわ音楽交流会

※集計は、「成人式」、「海開き」、「あまみシマ博覧会」など群島全体で実施しているものを除いている。

・資料：平成27年度奄美群島の概況(観光)/大島支庁総務企画課をもとに集計

④ 喜界町の観光受入実績(H24～28年)

H24年度以降の喜界町の観光受入実績は、年度によって内容や種類と人数のばらつきがみられますが、例年、取材や旅行代理店の関係者による視察(FAMトリップ)やメディア関連の取材等が実施されていることもわかります。

また、関西圏を中心とする大手旅行代理店数社のツアーや大型客船を使ったクルーズ等の旅行商品も販売されており、1回のツアーの平均的な参加者数は10～15名程度となっています。

	小規模ツアー等						小規模ツアー 合計	大手旅行会社のツアー			
	一般客		視察・取材等		実証事業等			大型客船	旅行商品 ※1		
平成28年	4回	29人	2回	5人	3回	30人	9回	64人	1回	360人	46回 (552人)
平成27年	6回	66人	5回	22人	3回	19人	14回	107人	1回	360人	61回 (732人)
平成26年	2回	35人	3回	14人	2回	13人	7回	62人			35回 (420人)
平成25年	3回	42人	1回	2人	5回	31人	9回	75人			37回 (444人)
平成24年	3回	101人	3回	5人	2回	3人	8回	109人			10回 (120人)

※ 喜界島観光物産協会の集計した資料にもとづき作成

※1 旅行商品の参加者数は、平均参加者数12名/回として推計

これらの調査結果から、奄美群島全体の入込客数の増加傾向と同様、喜界島においても入込客数が増加傾向にあります。その一方、イベントの実施回数については、奄美大島や与論島と比べると少ないことがわかります。

喜界島の観光目的の来訪者については、平成27(2015)年以降、大手旅行会社のツアーの催行回数が増加しており、一般の観光客や実証事業によって訪れる来訪者数も年ごとの増減はあるものの、毎年、一定数の来訪者があることがわかります。

また、宿泊施設については、奄美大島や与論島に比べ軒数、収容人数ともかなり少ないことがわかります。

2 喜界町における観光関連調査結果

(1) 観光に関する意識調査結果

① 観光客へのアンケート調査結果

a. 明確な目的を持った観光客へのアンケート調査結果

○丸の内朝大学 2016 秋学期「古代遺跡発掘クラス in 喜界島」

フィールドワーク参加者アンケート調査結果

・ 来島日：平成 28 年 11 月 26 日(土)～27 日(日)

・ 回答者数：25 人

性別		居住地		出身地	
1.男性	7人	東京	18人	1.喜界島	
2.女性	18人	神奈川	4人	2.喜界島以外の奄美群島	
		埼玉	2人	3.その他の都道府県	25人
		千葉	1人	出身地内訳	
年代		職業		東京	6人
1.～10代		1.自営業		埼玉	5人
2.20代	1人	2.会社員	23人	神奈川	3人
3.30代	13人	3.公務員	1人	千葉	2人
4.40代	7人	4.パート・アルバイト		大阪	2人
5.50代	3人	5.主婦		兵庫	1人
6.60代		6.学生		岐阜	1人
7.70歳以上		7.その他	1人	岡山	1人
8.未記入	1人			徳島	1人
				山口	1人
				大分	1人
				熊本	1人

喜界島来訪経験		宿泊数		旅行情報入手手段	
1.なし(今回が初)	19人	1.1泊	13人	1.本や雑誌	13人
2.ある	6人	2.2泊	11人	2.新聞	2人
来訪回数内訳		3.3泊	1人	3.旅行雑誌	5人
1回	1人	4.4泊以上		4.TVの旅行番組	3人
2回	2人			5.友人クチコミ	10人
3回	3人			6.旅行会社パンフ	
				7.旅行会社サイト	1人
喜界島の再来訪意向		旅代金総額		8.観光協会サイト	9人
1.是非また来たい	14人	1.5万円未満	6人	9.観光協会SNS	5人
2.また来たい	7人	2.5万～10万円未満	18人	10.自治体サイト	1人
3.機会があればまた来たい	2人	3.10万～15万円未満		11.自治体SNS	1人
4.来たくない		4.15万円～		12.クチコミサイト	7人
5.未記入	2人	5.未記入	1人	13.個人ブログ	5人
年間旅行頻度		来島経路		14.物産展・イベント	4人
1.年1～2回	5人	1.鹿児島から飛行機	16人	15.その他	3人
2.半年に1～2回	7人	2.奄美大島から飛行機	9人	FA	
3.2～3か月に1～2回	9人	3.鹿児島から船		インターネット、yahoo!	
4.1か月に1～2回	4人	4.奄美大島から船		Google	

喜界島を知ったきっかけ		選択肢2と3の内訳			
1.喜界島出身		2:過去の来島目的		3:喜界島を知った媒体	
2.来たことがあった	7人	a.観光	5人	a.本・雑誌・新聞	4人
		b.仕事	2人	b.TV番組・映画	
		c.調査研究		c.旅行ガイド・旅行雑誌	3人
		d.その他	3人	d.ネットサイト	
3.来たことはないが知っていた	10人	FA		e.友人知人クチコミ	2人
		マラソン		f.その他	2人
		:2016年の朝大学研修旅行		FA	
		他の奄美群島にきたことがあった			
4.知らなかった	8人	名前のみ知っていた			

フィールドワークの満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	14人	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深い内容と情報の満載の楽しい経験でした。 ・発掘の時間をもう少し長くしても良いかもしれない。 ・シュガーロードに行きたかったです。 ・スケジュールを組み直していただいたおかげで発掘作業もできて満足です。 ・天候にあわせてうまく対応していただきました。
2.満足	10人	
3.やや満足	1人	
4.やや不満		
5.不満		
6.非常に不満		
7.未記入		

夕食の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・BBQのために皆さんががんばって下さっておいしく楽しくすごせました。 ・大変楽しかった。 ・肉をもっとたくさん食べたかった。 ・お酒も十分にあり楽しかったです。 ・お肉もエビも美味しかったです。 ・あまみの高校生の方の三味線も聴けてとても良かった。 ・お肉、お野菜、エビ、どれも美味しかったです。 ・楽しかったし美味しかったです。 ・お酒、お肉沢山ご用意いただきました。
2.満足	9人	
3.やや満足		
4.やや不満		
5.不満		
6.非常に不満		
7.未記入		

廃校活用の宿泊施設の満足度		寄せられたコメント
1.非常に満足	7人	<ul style="list-style-type: none"> ・女性客向けに部屋に鏡があればいいと思いました。 ・旅館やホテルと違った夜でした。 ・シャワーを増やしてほしい。 ・中学生に戻ったようで楽しかった。 ・非日常的空間であればあれで良い。 ・宿泊部屋にカーテンを付けて下さい。アメニティーがあり良かったです。 ・宿泊部屋の窓にカーテンがあるとうれしいです。 ・過ごしやすかった。 ・施設がキレイ。自販があるとありがたいです。 ・もっとたくさんの方に知っていただきたいです、自販機があるといいかもしれません。
2.満足	16人	
3.やや満足	2人	
4.やや不満		
5.不満		
6.非常に不満		

参加前の期待との比較	
1.期待したものより楽しかった	17人
2.期待どおりのものだった	8人
3.期待したものより楽しくなかった	

今後、喜界島で楽しみたいこと	
1.海のレジャー(釣り、ダイビング等)	9人
2.エコツアーや自然体験	11人
3.集落散策やまち歩き	11人
4.歴史探訪(遺跡や戦跡の見学等)	14人
5.黒糖焼酎の酒蔵見学	10人
6.農業体験	6人
7.集落行事への参加	7人
8.民泊体験	5人
9.郷土料理を食べる	12人
10.特産品の買い物	8人
11.サイクリング	9人
12.レンタカーでドライブ	3人
13.何もせずのんびり	9人
14.その他	2人
14.その他のコメント:喜界島マラソン、島唄を習う体験	

● 今後の喜界島の観光振興で求められること

<ul style="list-style-type: none"> ・島の情報を手に入れやすくすること。交通アクセスが良くなればいいと思います。逆に時間をかけてフェリーなどで島をのんびりめぐるツアーの方が島の雰囲気にあっているかもしれません。
<ul style="list-style-type: none"> ・表に出ること、存在を知らせること ・行ってみたいけど何があるかよく分からない、という印象を持っている方が私の周囲も多かったです。遺跡やサンゴはもっと情報発信(マラソンも)すればいいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・一部に特化した売り方、アピールの仕方。例えば光害のないことを利点にした星空写真の撮影者へピンポイントに宣伝をするなど。ニュージーランドのテカポ(※)を目指すとか。都会でないことを理由にしたアピールが必要だと思う。(※テカポ湖:夜は満点の星空が素晴らしい場所。ユネスコの国際ダークスカイリザーブ(星空保護区)に指定された、星空観察にパーフェクトなスターゲイジング(天体観測)スポット。)
<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡と自然(スギラビーチや他のポイント)マンゴー、焼酎、白ごま等の特産品をインターネットHPでもっと認知させること。
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと積極的に情報発信をしたほうが良い。発信面で改善の余地がありそう。 ・交通費がもう少しおさえられる様になれば良いと思います。何も無いことの魅力(観光、観光していない事が良いという意味)をもっと上手に伝えたいと思います。そういう旅を求めている層もいると思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと喜界島を知ってもらうこと。電動自動車、奄美の他の島との共催企画。
<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段
<ul style="list-style-type: none"> ・開発しすぎず今の状態をキープする。
<ul style="list-style-type: none"> ・喜界島を全国の方々に知ってもらうため様々な媒体でのアピール。
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化の維持と発信。
<ul style="list-style-type: none"> ・あまり開発しすぎずのんびりできる環境を残して欲しい。何でもある場所になると他と一緒にしてしまうので。強いていうなら奄美からの航空運賃が高い。もう少しリーズナブルだと遊びに来やすい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ダイビングをしましたが、花良治はとても素晴らしい(ほんとうにすごい)ポイントでした。地形派にはたまらないと思います。地形派にもっともっと売り込んでほしいと思います。こんなすごいところあんまりないです。全然知られていないので。(でも下手な人が知るとサンゴ折れちゃうかも。難しいです。上級者じゃないと?)外国人にも売り込めます。ぜったいに。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の島にはない貴重な遺跡やサンゴの化石が専門家の先生と一緒にレクチャーうけながら体験できる貴重な喜界だった。そういった特別な体験は東京など遠方から来る価値が充分ある。

●その他の意見、感想など

・今回は化石とサンゴ中心で島の観光やレジャーの時間があまりなかったのが次回またのんびり島体験に来たいです。大変お世話になりました。ありがとうございました。
・とっても楽しかったです！この体験を1人旅をした時にもできるのであればステキだと思います。
・喜界島たのしいです！！
・何もかも準備、用意して頂き本当にありがたかったです。自分なりに周りの人へ喜界島を宣伝するなど恩返しに努めたいと思います。色々ありがとうございました。
・大変しっかりサポートいただきありがとうございました。楽しかったです。
・今回も思い出に残る楽しい時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。商業施設が続々と増えるような観光地化ではなく、今の島の魅力をいかした体験ができるツアーがあればと思います。
・また来年遊びに来ます。友人をさそって。
・喜界島観光物産協会さんにお世話になりました。本当にありがとうございました。
・サンゴ研究所の先生のお話しはもっとしっかり聞きたくなりました。

b. 一般観光客へのアンケート調査結果

- ・調査期間：平成 29 年 3 月から 1 か月程度
- ・回答者数：35 人

性別		居住地		出身地	
1.男性	23人	東京	8人	1.喜界島	
2.女性	12人	鹿児島	8人	2.喜界島以外の奄美群島	3人
年代		神奈川	5人	3.その他の都道府県	31人
1.～10代		大阪	5人	4.未記入	1人
2.20代	4人	熊本	2人	出身地内訳	
3.30代	3人	宮崎	2人	東京	5人
4.40代	6人	福島	1人	大阪	4人
5.50代	6人	埼玉	1人	熊本	3人
6.60代	11人	千葉	1人	鹿児島	3人
7.70歳以上	3人	和歌山	1人	千葉	3人
8.未記入	2人	香川	1人	宮崎	2人
職業		同行者		埼玉	1人
1.自営業	7人	1.なし(1人)	9人	神奈川	1人
2.会社員	19人	2.ある	24人	岩手	1人
3.公務員	1人	3.未記入	2人	福島	1人
4.パート・アルバイト	2人	同行者内訳		静岡	1人
5.主婦	3人	家族	3人	京都	1人
6.学生	1人	夫婦	7人	兵庫	1人
7.その他	2人	友人	8人	岡山	1人
		同僚	6人	広島	1人
		その他	3人	香川	1人
				長崎	1人
				未記入	4人

喜界島来訪経験		来訪目的		宿泊数		旅行情報入手手段	
1.なし(今回が初)	17人	1.観光	23人	1.1泊	13人	1.本や雑誌	11人
2.ある	18人	2.仕事	11人	2.2泊	13人	2.新聞	1人
来訪回数内訳		3.帰省	2人	3.3泊	8人	3.旅行雑誌	1人
1回	2人	4.その他		4.4泊以上	1人	4.TVの旅行番組	4人
2回	4人	5.未記入				5.友人クチコミ	9人
3回	1人	仕事と観光の重複あり				6.旅行会社パンフ	4人
4回以上	11人					7.旅行会社サイト	12人
旅代金総額		喜界島の再来訪意向		年間旅行頻度		8.観光協会サイト	8人
1.5万円未満	14人	1.是非また来たい	15人	1.年1~2回	16人	9.観光協会SNS	
2.5万~10万円未満	7人	2.また来たい	9人	2.半年に1~2回	5人	10.自治体サイト	3人
3.10万~15万円未満	5人	3.機会があればまた来たい	9人	3.2~3か月に1~2回	8人	11.自治体SNS	1人
4.15万円~	4人	4.来たくない		4.1か月に1~2回	4人	12.クチコミサイト	2人
5.未記入	5人	5.移住したい		5.上記以外	1人	13.個人ブログ	4人
来島経路		6.未記入	1人	6.未記入	1人	14.物産展・イベント	
1.鹿児島から飛行機	12人	7.その他	1人			15.その他	3人
2.奄美大島から飛行機	22人					16.未記入	3人
3.鹿児島から船	1人						
4.奄美大島から船							

今回の旅行の過ごし方		今後、喜界島で楽しみたいこと	
1.海で過ごす(釣り、ダイビング等)	1人	1.海のレジャー	16人
2.集落散策	5人	2.民泊体験	1人
3.歴史探訪(遺跡や戦跡の見学等)	8人	3.エコツアーや自然体験	7人
4.農業体験		4.郷土料理	12人
5.黒糖焼酎の酒蔵見学	5人	5.集落行事への参加	2人
6.サイクリング	2人	6.その他	
7.友人宅訪問	3人	7.未記入	7人
8.買い物や飲食を楽しむ	2人		
9.レンタカーでドライブ	13人		
10.何もしないでのんびり	4人		
11.その他	7人		
12.未記入	7人		
その他のFA			
ゴルフ、写真、ツアー旅行、仕事			

● 喜界島の観光の不満や改善点

不満なし。現状で良い。
空港のお土産内容、食堂、待合室の拡大、観光看板
トイレの数を増やしてほしい。
観光案内が少ない。観光地化してほしい。
何もなくてつまらない。
さとうきびロードなどカーナビで表示されない所は看板を標示してほしい。

● その他の意見、感想など

ガジュマルの島、観光メインの紹介、ガジュマルの土産品など
のんびり時間を過ごしたい。
いいところなので、皆んな来てほしい。アピールしてください。
単身赴任で来ましたのであまり参考にはならないと思いますが、喜界島は良いと感じました。
朝、スズメの鳴き声がすごいです。
観光の見どころをもっと詳しく教えてほしい。
人も暖かい島でした。今度来る時は晴れの島を見に来ようと思います。

c. 調査結果の分析

○ 属性について

年齢層を見ると、丸の内朝大参加者では30代が最多ですが、一般客は60代が最多でした。居住地は丸の内朝大参加者が首都圏に集中している一方、一般客は各地から旅行会社のツアーで訪れていることが推察されるため、関東、関西が同程度に多く、それ以外にも九州や四国、東北などからも訪れています。ただし、一般客の中には、鹿児島を中心とする九州圏から仕事で来ている人が10人含まれるため、観光目的の回答者だけを見た場合、東京からの来島者が最多になっています。

また、観光情報の入手や喜界島でやってみたい事などは年齢による違いもある程度見られました。

○ 回答者の来島経験や旅行頻度、旅行消費額等について

喜界島の来島経験は、丸の内朝大参加者25人中19人(76.0%)が初来島ですが、一般客は35人中17人(48.5%)が初来島になっていますが、来島経験のある一般客の中には、仕事で来ている人が9人含まれているため、観光目的の一般客は、初来島の人が過半数ととらえることができます。

旅行代金の比較では、丸の内朝大参加者は「5万～10万円未満」が最多の18人でしたが、一般客は「5万円未満」が最多の14人で、仕事目的の5人を差し引いても「5万円未満」が最多でした。

旅行頻度は、丸の内朝大参加者のうち9人(36%)が「2～3か月に1～2回」、7人(28%)が「半年に1～2回」と回答しており比較的旅行好きであることがわかります。一般客の旅行頻度は16人(45.7%)が「年1～2回」で、丸の内朝大参加者に比べ旅行へ行くことが少ない人たちであることがわかります。

喜界島への再来訪意向は、「是非また来たい」と回答している人が丸の内朝大参加者で14人(56%)いるのに対し、一般客では15人(42.8%)となっており、そのうち4人が仕事目的の来島者で、全体の11.4%を占めています。また、「是非また来たい」と「また来たい」と回答した人の合計を見ると、丸の内朝大参加者の21人(84%)に対し、一般客は24人(68.5%)になっています。

○ 回答者の旅行情報の入手手段について

旅行情報を得ている媒体については、丸の内朝大参加者は「本や雑誌」が13人(52%)と最多で、「友人クチコミ」が10人(40%)という順番でした。一般客では「旅行会社のサイト」が12人(34.2%)と最多で、「本や雑誌」が11人(31.4%)という順番になっています。また、選択しなかった旅行情報の入手手段は、丸の内朝大参加者が「旅行会社のパンフレット」、一般客が「観光協会のSNS」「物産展・イベント」という点が大きな特徴と考えられます。

○ 喜界島での過ごし方について

旅程が短く、ツアーの内容も固定的であった丸の内朝大参加者については、「今後、喜界島で楽しみたいこと」として喜界島の過ごし方を質問しました。その結果、「歴史探訪（遺跡や戦跡の見学等）」が14人(56%)と最多で、「郷土料理を食べる」が12人(48%)、「エコツアーや自然体験」と「集落散策やまち歩き」が11人(44%)と高い支持を得ています。

一般客の場合は、「今回の旅行の過ごし方」と「今後、喜界島で楽しみたいこと」の両方について質問しました。その結果、「今回の旅行の過ごし方」は「レンタカーでドライブ」が13人(37.1%)、「歴史探訪（遺跡や戦跡の見学等）」が8人(22.8%)という順番でしたが、「今後、喜界島で楽しみたいこと」の回答は、「海のレジャー」が16人(45.7%)、「郷土料理」が12人(34.2%)となっています。

○ 自由記述の意見からの喜界島の観光振興について

丸の内朝大参加者と一般客のいずれの自由記述でも「島の情報を手に入れやすくすること」「もっと喜界島を知ってもらうこと」「行ってみたいけど何があるかよく分からない、という印象」「観光の見どころをもっと詳しく教えてほしい」など、「情報発信」の多様な課題があることがわかります。

また、廃校利用の宿泊は「女性客向けに部屋に鏡があればいい」「部屋にカーテンを付けて下さい」といった、宿泊の快適性や利便性についての課題が指摘されていました。

観光振興についての意見では、丸の内朝大参加者は「何もないことの魅力（観光、観光してこない事が良いという意味で）」「開発しすぎず今の状態をキープ」「何でもある場所にするとは一緒になってしまう」「商業施設が続々と増えるような観光地化ではなく、今の島の魅力をいかした体験ができるツアーがあれば」といった、開発よりも現状を楽しむことを支持する意見が多く見られました。

一般客は「観光地化してほしい」「何もなくてつまらない」などの観光開発を望む意見と「不満なし現状で良い」「のんびり時間を過ごしたい」「いいところなので、みんな来てほしい」といった喜界島の良さを指し示す意見が見られました。

② 関係者ヒアリング調査結果

喜界町において、様々な立場で観光振興に携わっている関係者を対象にヒアリング調査を実施しました。ヒアリング結果について、「観光全般」・「農業体験」・「サンゴ礁活用」に分け要約したものを以下に示します。

○ 観光全般

- ・ 喜界島にはキラーコンテンツが無いため、奄美大島のオプションとしてでなければ観光客は来てくれないのが現状
- ・ 島内でのコンテンツ整備よりも、まずは観光客に来てもらう努力をすることが必要。今あるコンテンツを生かしてどのように滞在してもらうかを考えるべき。
- ・ 島外に営業に行くと効果はある。いろいろな機会でも喜界島をPRしたり、これまでのつながりを大事にして営業をしている。
- ・ 喜界島も、営業と誘客にもっと力を入れていくべき。
- ・ 観光振興にあたっては、役場・観光物産協会・地域おこし協力隊など関係者のコミュニケーションを図っていく必要がある。
- ・ 特産品販売に関して、加工センターについては、稼働率を高めて将来的には民営化に向かっていってもらえればと考えている。
- ・ 今後、喜界島で提供したい観光のスタイルとしては、「ゆったりできる」ということ。今あるものを壊さずに観光振興ができればよい。
- ・ 農業を生かしきれていないと感じているので、農業を生かす観光ができればよい。
- ・ 喜界島の観光の柱になるものが見当たらないので、そういったものがでてくるとよい。

○ 農業体験

- ・ 夏場に受入れを行なったこともあり、参加者のほとんどは夏休みの学生
- ・ 受入れは農業が盛んな集落で行ない、対応は青年団が中心となっている。
- ・ 農作業だけでなく、釣りや自転車での島内一周など、観光要素を入れて参加者に楽しんでもらっている。
- ・ 民泊にすると受入農家の方も気を使い、赤字になってしまうため、集落の空き家を活用して受け入れている。
- ・ 参加者は農業未経験者だが「とてもよく働く」と受入農家の評判がよい。
- ・ 農業体験は、都会ではできないものとして楽しんでもらえているが、それは喜界島以外の地域でもできることなので、「集落の人とのふれあいや繋がり」が重要と考え、農業体験が終わっても付き合いを続けている。
- ・ 参加者から他の人に口コミで評判が伝わり、次の参加者につながっている。

○ サンゴ礁活用

- ・ 喜界島のサンゴ礁は世界的にみても価値が高い。
- ・ 国内にジオパークになっているサンゴ礁の島は無いが、海外ではジオパークになっている大きなサンゴ礁がある。

- 3時間程度のジオツアーをやりたい。ツアーでは、地質や鍾乳洞、サンゴ礁を見たり、雨天時は化石磨きやサンゴ染め体験等で楽しんでもらうことも可能
- サンゴに関わる環境教育等も組織のメイン事業としていけたらよい。
- 島内に住んでいる人が自分の島のことを説明できるようになってほしい。そのため、よんよ〜り喜界島の活動にサンゴに関わる要素を入れてもらいたいと考えているが、機会が少なく人材育成が難しい。
- シュノーケリングで簡単にサンゴを見ることができるポイントがあるので、島内住民向けの見学ツアー等を実施することも可能
- 島内のジオ関係の資源を見て回るためのツール（看板、パンフレット）の整備が必要。そのようなツールに研究成果を活用してもらいたい。
- ダイビング客へ喜界島のサンゴ礁の価値や凄さ、環境保全の重要性を周知することも必要
- WWFの事業が入って成功している石垣島の白保集落の事例等も参考になると思う。

(2) 喜界町の集落資源調査

① 集落資源調査結果

喜界町内にある 37 集落の自然、歴史と伝統、生活文化等の特徴的な地域資源の状況把握を目的に集落資源調査を行い、各資源の特性を踏まえた具体的な利活用方策を検討しました。

集落資源調査では、喜界島の各集落の様々な資源を確認しました。確認した集落資源は、サンゴ礁や地質、遺跡といった学術的な価値の高いもの、在来品種のソラマメやゴマ、柑橘類等の農業に関連するもの、ガジュマルの巨木や蝶のような喜界島の自然資源等は、特に喜界島で楽しめる観光に取り入れることができる可能性が高い資源であることがわかりました。

このような集落資源を活かした観光では、個人客、家族客や少人数のグループ客、明確な目的を持った旅行者や団体客といった喜界島で受入れが可能なターゲットにあわせた観光プログラムや旅行商品を作っていくことも必要です。

また、喜界島に就航しているプロペラ機やフェリー等の生活路線も島外からの観光客には、物珍しく、喜界島でなければ搭乗や乗船することができないものであるため、それらを活用した観光の方策や旅行商品を作ることも期待できます。

一方、集落資源を活かしながら観光客を受け入れる観光に対する集落の意向は、積極的な集落とそうではない集落が見られ、受入れに積極的な集落では、具体的な方策や他地域の事例に興味を持っていることがわかりました。

特定の対象者に絞った観光受入への意向がある複数の集落も確認できました。具体的な受入れの対象として、夏季の子供のキャンプの受入れや豊年祭等の行事に島外に居住している喜界島出身者を受け入れたいといった、明確な受入イメージを持っていたり、対象者像を考えていたりする集落もあり、受入実績のある集落もありました。

集落の観光受入意向では、回答のあったほとんどの集落が公園や神社、灯台等、地域の公共施設の観光活用に前向きな意向を持っており、集落によっては、豊年祭、ゐの日祭、水神祭等の祭礼についても受入可能としているところがありました。

喜界町の観光振興では、集落が持つ魅力も大きな要点となります。今後も集落の意向を確認しながら、観光受入を進めていくことが必要といえます。

② 集落資源調査より得られた喜界島の魅力ある観光資源

集落資源調査を進めるなかで、島外から訪れる観光客の目線を持って喜界島を見ていくと、様々な地域資源や魅力な事物があることがわかります。そのような地域資源や魅力は、観光振興では重要な要素となるものが少なくありません。それらの島の人の生活に密着した、喜界島らしさを形作っている地域資源の代表的なものとして、次頁のものを挙げるすることができます。

a. 群島内でも広く知られている質の高い集落景観

○ まちなみや集落の家並、細い道(路地、里道)



○ 一般住宅の庭や生垣



○ 石垣の集落景観



b. 農業の島らしい在来作物を活かした食と特産品



c. 島内の生活風景や日常的な要素



d. 島内の産業および産業が作り出す景観



3 喜界町の観光の課題と分析

(1) 喜界町の観光の課題

① 観光振興全般に関する課題と考え方

a. 目指す観光の具体化、明確化

目指す観光を明確にする観点から、観光で想定される「呼び込む対象者」「資源」「伝えたい物事」について、以下のように整理しました。

現状から考えられる 呼び込む対象者	・大型の団体観光客、小規模グループの観光客、個人旅行者 等 ・一般的な観光客、特定分野に興味のある人、学生(修学旅行、研究、研修)、スポーツ合宿、農業や移住の希望者、島の出身者や子孫 等
現状から考えられる 様々な観光資源	・名所旧跡、風景・景観、体験・交流、歴史文化、飲食物販、自然資源、まちなみや集落、海のアクティビティ、年中行事 等
現状から考えられる 伝えたい物事	・自然、気候風土、歴史文化、人的交流、食品や産業 等 ・集落の魅力、暮らしの様子、生活文化や風習 等

b. 観光振興の裏付けとなる来島者の旅行観光実態の把握

観光客の来島目的、観光行動、泊数、消費額などについて、アンケート調査や聞き取り調査などを通じ、定量的・定性的な把握を実施し、来島者が求めるものを知ることが必要です。それによって、感覚的にとらえがちだった観光行動が裏付けられ、来島者が本当に求めるものわかることで、観光のプログラムや旅行商品としての提供と来島者の満足度の向上が期待できます。

c. 地域の関係者による観光受入体制の構築

観光の受入や飲食物販等に携わる関係者の連携による組織体制を作ることで、情報共有が可能になり、観光受入の幅や内容の拡充が見込めます。地域の多様な関係者が観光に関わることで、来島者が地域の人に接する機会を多く生み出すことにつながります。

② 観光振興に関連するソフト系の課題

a. 観光情報の効果的な発信

現在、実施している情報の発信では、紙媒体のものとして喜界町が発行している観光パンフレット、観光物産協会が発行している地図付の観光パンフレットが2種類、冊子状のシマあるきマップ等があります。喜界町内の飲食店は、幹線道路沿いだけでなく、住宅地内にも点在しているため、島外からの来島者にはわかりづらく、正確で詳細な地図に島内の飲食および物販の店舗を記載したマップ等の整備が求められます。あわせて、スギラビーチをはじめとする景勝地やガジュマルの巨木等の観光名所は、正確な地図上に場所を記載した小型の冊子等による周知が考えられます。紙媒体のツールは、来訪者に喜界島を詳細に伝えることができるため、空港をはじめとする交通拠点や宿泊施設等で積極的に配布をすることで、看板表示による案内の補完等の効果も期待できます、

一方、インターネットによる情報発信では、喜界町役場のホームページと観光物産協会による喜界島総合情報サイト(喜界島ナビ)が主要なものとなっています。観光物産協会、ゆいカフェ、サンゴ礁科学研究所等は facebook のページがあります。インターネットを使った情報発信は、発信する情報の種類によってホームページと SNS を使い分けることができるため、どのような情報をどのようなタイミングで誰に発信するかを考え、効果的な方法を考えていくことが必要です。

これ以外では、雑誌やTV番組等で喜界島の事物が単発的に取り上げられています。

b. 関係者や施設等の接遇の向上

喜界町内の飲食や物販の店舗、集落の商店、文化施設や交通拠点、タクシーやバス等は、島内住民を対象としたサービスが中心であるため、島外から訪れる観光客と接する際の関係者の意識を醸成することも今後の観光振興を考えていくうえでは重要になります。

特に、初めて来島する観光客の場合、島で会ったり接したりする人の印象が島全体の印象を大きく左右すると考えられます。また、会話や声掛けから島の人と観光客の人的な交流につながることもあるため、接遇は今後の観光振興では大きな要点と考えられます。

c. 地域資源を活かした観光コンテンツづくり

喜界町内で見たり体験したりできる様々な事物を観光素材とするためには、観光客に提供することを踏まえ、新しい要素を組み合わせたり、わかりやすい説明を加えたり、観光として楽しんでもらうために地域資源を磨きあげることも必要になります。

また、観光コンテンツを考える場合、どのような人に楽しんでもらうのか、どのような売り方をすれば良いのか、といった旅行商品化についてもあわせて考えていくことが欠かせません。

③ 観光振興に関連するハード系の課題

a. 統一された案内表示

集落名表示、観光関連の施設（加工センター、埋蔵文化財センター、公園等）への幹線道路からの段階的な案内、集落売店名の表示等、島内景観を損なわない案内表示の検討が求められます。案内が必要な施設や場所の抽出、既存の案内表示のデザイン踏襲による一体感の確保等も必要です。



b. 喜界島らしい風景や集落景観の維持と向上

歩道や街路樹、サンゴの石垣と細い道（里道）、緑地や公園、海岸線、ランドマーク（巨木、製糖工場跡の煙突、戦跡等）といった喜界島らしい風景を形成する要素の維持が必要です。具体的な作業として、定期的な下草除去による草地管理、ポイントとなる場所や要素を中心とする景観整備、石垣の崩れ箇所等の破損部分の修復、戦跡等の文化財の修復と維持管理等が挙げられます。



群島内の他の島に比べ、喜界島の集落景観や民家の庭は美しく整っている物が少なくありません。そのような身近な景観の美しさに対する住民の意識づけを目的とする方策（住民向けのガーデニングツアーやオープンガーデン等のイベント開催等）の検討も求められます。

c. 観光客向け拠点づくり(空き家や空き店舗、集落売店等の活用)

集落には観光客向けの休憩場所が少ないため、空き家等を活用した休憩場所づくりは、ツアー一時の暫定利用等も視野に入れ、地域に負担の少ない方策の検討も必要です。町なかの空き店舗等は、観光情報の発信（マップやパンフレットの設置、島内のイベント情報の掲載等）や休憩場所としての整備を行うことで、住民も利用できる休憩機能と観光客の回遊性の向上が期待できます。



(2) 喜界町の観光の課題整理(SWOT分析の実施)

各種調査や関係者の意見から、喜界町には島に根差した魅力的な地域資源がある一方、様々な課題も存在していることがわかります。このため、観光振興で目指す方向性を検討するにあたり、魅力と課題という喜界島の持っている要因（内部要因）と喜界島を取り巻く観光の動向（外部要因）について内部要因を「喜界島の観光の強みと弱点」に、外部要因を「喜界島に訪れるチャンスと想定されるマイナス要素」としてSWOT分析※による整理分類を行い、その結果をもとに、クロスSWOTを実施しました。

※ SWOT分析とは、内部要因としての強み(Strength)と弱点(Weaknesses)、外部要因としての機会(Opportunities)と脅威(Threats)の頭文字をとった分析方法で、数値化が難しい要因を整理分類し、事業戦略の策定やマーケティング戦略を導き出すものです。

① SWOT分析の結果

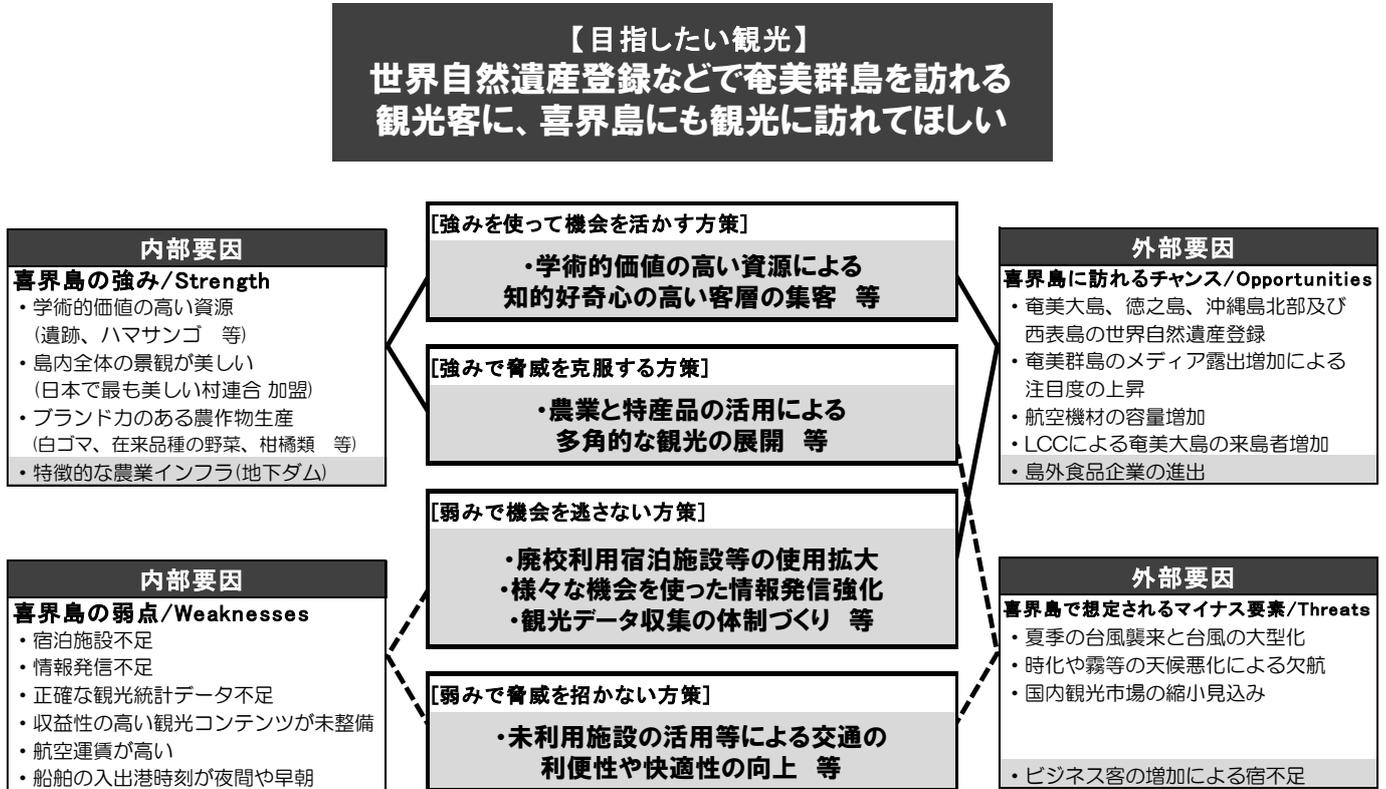
喜界町における観光振興に向けた課題について、SWOT分析を行いました。

内部要因(強みと弱点)	外部要因(チャンスとマイナス要素)
喜界島の強み/Strength <ul style="list-style-type: none"> ・学術的価値の高い資源(遺跡、ハマサンゴ 等) ・島内全体の景観が美しい(日本で最も美しい村連合 加盟) ・ブランド力のある農作物生産(白ゴマ、在来品種の野菜、柑橘類 等) ・特徴的な農業インフラ(地下ダム) 	喜界島に訪れるチャンス/Opportunities <ul style="list-style-type: none"> ・奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録 ・奄美群島のメディア露出増加による注目度の上昇 ・航空機材の容量増加 ・LCCによる奄美大島の来島者増加 ・島外食品企業の進出
喜界島の弱点/Weaknesses <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設不足 ・情報発信不足 ・正確な観光統計データ不足 ・収益性の高い観光コンテンツが未整備 ・航空運賃が高い ・船舶の入出港時刻が夜間や早朝 	喜界島で想定されるマイナス要素/Threats <ul style="list-style-type: none"> ・夏季の台風襲来と台風の大型化 ・時化や霧等の天候悪化による欠航 ・国内観光市場の縮小見込み
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス客の増加による宿不足

※網掛け部分は、間接的に観光に影響を及ぼす要素

② クロスSWOTの結果

喜界町における観光振興の具体的方策について、SWOT分析の結果をもとにクロスSWOTを行いました。

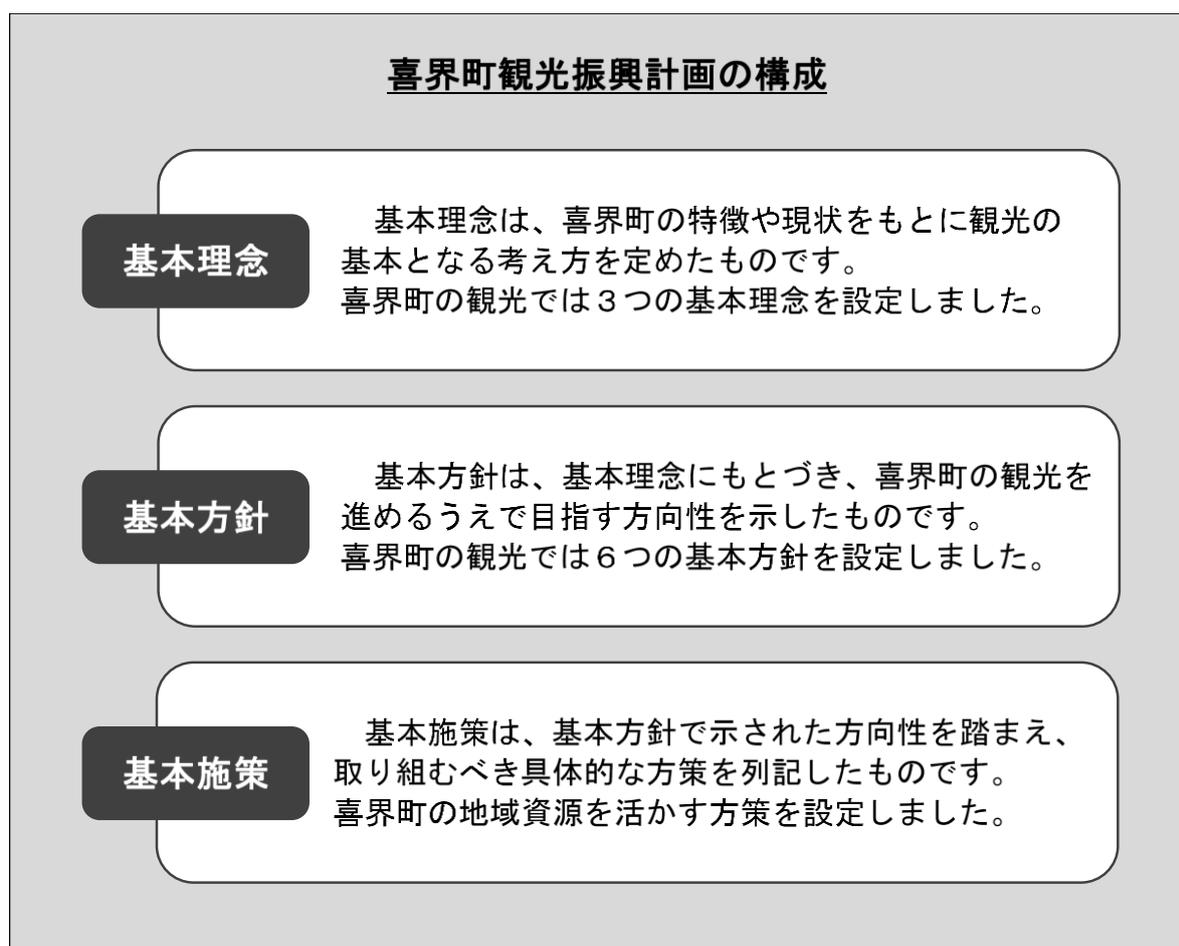


第4章

喜界町の目指す観光と基本方針

喜界町の観光振興計画は、「基本理念」「基本方針」、「基本施策」の3つの要素が中心となって構成されています。

「基本理念」「基本方針」、「基本施策」の目的と役割および、喜界島内外の関係者の役割は、以下のように考えることができます。



喜界町観光振興計画に沿い
島内外の関係者が連携しながら
喜界島の観光を推進させます。

喜界町の観光の基本理念

基本理念は、喜界島の観光を進めていくうえでの基本的な考え方を示すものです。「島を知って楽しむ」、「島に行ってみたくなる」、「島を発信する」という3つの考え方のもと、以下の3つの基本理念を掲げて観光振興に取り組みます。

1 島にある様々な資源を活かし、喜界島を知って楽しむ観光をすすめます。

遺跡やサンゴ礁、集落景観や年中行事など、喜界島にある多様な資源を活かし、喜界島をよく知ってもらうことで、来島者は楽しく、居住者は誇りを持てる喜界島らしい観光をすすめます。

喜界島には、学術的にも価値が高い色々な時代の遺跡や、世界的にも有数のハマサンゴといった資源があります。また、サンゴ石で作られた石垣の景観や八月踊りをはじめとする年中行事等も喜界島の魅力を伝える資源です。それらの資源を通し、喜界島を知ることで島を楽しんでもらう観光を考え実現します。島に住む人が島を知ることは、自分の島を見直し、好きになることにもつながります。



2 島の暮らしや人との交流を通じ、行ってみたい島～喜界島～を目指します。

喜界島の普段の暮らしを知り、住んでいる人と出会うことで、行ったことのない喜界島に行きたくなる、見たことのない風景を見たくなる、のんびりした時間を過ごしたくなる体験や交流を生み出します。

喜界島の暮らしやそこに住む人との交流は、喜界島でなければ出会えない、できない、味わえない代表的なものです。島の人と知り合い、これまで以上に島を好きになってもらえるような、行ってみたい、また行きたいといわれる島を目指します。



3 島を訪れた人と住んでいる人、ひとりひとりが喜界島を広く熱く発信します。

多くの人に広く喜界島を知ってもらうために、居住者、来島者、出身者それぞれが熱い思いをもって喜界島を広く伝える仕組みや取組を進めます。

喜界島の楽しさや素晴らしさは、島に住んでいる人や島を訪れた人が実感をもって多くの人に伝えることで、喜界島の根強いファンづくりにつながります。島外に住む出身者が周囲の友人に喜界島を伝えるなど、喜界島に関わりのあるすべての人が、喜界島を発信することが大切です。



喜界町の観光の基本方針

基本理念に基づき、喜界町の観光振興を進めるための施策の方向性を示すものとして6つの基本方針を定めました。

■ 基本方針 1

喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開

色々な時代の埋蔵文化財や世界的にも有数の隆起サンゴ礁等、喜界島には学術的な価値の高い地域資源が見られます。それらを専門的な知識を持った人が分かりやすく説明し、体験を通して資源に触れることで、喜界島の良さや素晴らしさを大人から子供まで多くの人が楽しみながら知ることのできるアカデミックな観光を展開します。

■ 基本方針 2

農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり

国内一のシェアを誇る白ゴマをはじめ、サトウキビ、タンカン等の果樹からソラマメ等の在来作物の栽培まで喜界島は農業が盛んな島です。喜界島でとれるこれらの農産物や水産物を活用し、島を訪れる多くの人々が新鮮で美味しい島の食材を味わい楽しめるよう、地域の食文化を軸とする食の魅力づくりに取り組みます。

■ 基本方針 3

自然資源の保全・活用と広域的なエコツーリズムの推進

奄美群島国立公園の指定や世界自然遺産登録に向けた動きなど、喜界島を取り巻く自然保護の動きは大きく変わるタイミングにあります。奄美群島全体の自然保護の動きと連携した広域的なエコツーリズムを進めながら、喜界島の貴重な自然資源の保護保全と観光への適正な活用を進めます。

■ 基本方針 4

歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進

琉球の影響や薩摩藩との関連が分かる事物、風土に根差した集落景観は、喜界島の歴史や文化にまつわる大きな特徴です。サンゴの石垣や古い高倉、大切に使われている湧水や美しく整えられた民家の庭等を喜界島らしい風景として長く残しながら、多くの人々が魅力を味わえる観光に取り組みます。

■ 基本方針 5

地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

観光客がまた訪れたいくなるためには、訪れた土地の様々な人に出会い、いかに楽しい時間を過ごすことができるかがとても大切です。島に住む人たちが、自らの地域について深く知り、島の魅力を受け継ぎ伝えながら、島を訪れる多くの人たちに島を好きになってもらえるような身近な仕組みをつくっていきます。

■ 基本方針 6

観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

喜界島を訪れる人たちがいつ頃、どのような目的で来島しているのかを知る事は、これからの喜界島の観光振興を進めていくうえで、重要な手掛かりとなります。そのために、島内の関係者の連携をしっかりと図り、観光客の動向やニーズを捉えた効果的な情報発信や必要な観光基盤の整備・充実に努めます。

喜界町の観光の基本施策

基本方針1

喜界島の特色ある
地域資源を活用した
アカデミックな
観光の展開

基本施策

- 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組
- 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進
- 学会や研究会、視察等の誘致

1 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組

世界有数の速さで隆起するサンゴ礁や平安期における環東シナ海の広域交易の結節点であった可能性を窺わせる埋蔵文化財など、喜界島の特殊性を示す学術的価値の高い地域資源を十分に活用し、観光資源としての機能充実を図るとともに、観光旅行や特産品づくりなど創意工夫により新たな魅力の創出に努めます。



《考えられる具体的施策》

- ・ 島内研究施設等の観光拠点機能の充実
- ・ 遺跡を利活用する観光方策の検討
- ・ 国指定史跡とジオパークの推進による地域資源の客観的な価値評価の確立
- ・ アカデミックなモチーフを楽しむ土産物の開発と売上収益による資源保護（ジオ菓子、三角縁神獣鏡チョコ、ドッキー等を参考にした商品開発 等）

2 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進

島内の研究機関等と連携し、研究者や学生、島内外の児童や生徒を対象とした体験型の教育旅行を推進します。

《考えられる具体的施策》

- ・ 研究者や学生、島内外の児童や生徒を対象とする見学コースや体験プログラムの検討（サイエンスキャンプ、サンゴマルシェの継続的实施、子供向け自然体験の拡充 等）

3 学会や研究会、視察等の誘致

喜界島の特長的な地域資源等を生かし、学会や研究会、視察等の誘致に努めます。



《考えられる具体的施策》

- ・ 島外研究者の招聘による小規模な研究会や学会の誘致および、閑散期の宿泊稼働率の向上

基本方針2

農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり

基本施策

- 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進
- 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討
- 農家民泊や農業体験等の受入体制整備

1 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進

喜界島産の新鮮で美味しい食材や希少な在来作物を活用し、島で受け継がれてきた食文化の伝統をもとに、島内外の関係機関と連携したメニュー開発や特産品づくりに取り組みます。



《考えられる具体的施策》

- ・ 島内産食材の積極的利用に向けた関係者の連携
- ・ 山羊や花良治ミカン等のかんきつ類をはじめ伝統的な食文化に基づくメニュー開発
- ・ 在来農産物を活用した特産品の開発と情報発信
- ・ 大学等の高等教育機関との包括連携協定に基づく食の魅力づくり

2 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討

農業立島としての歩みのなかで築いてきた地下ダムや一本道などの農業基盤やこれまで連綿と受け継がれてきた伝統的な漁法などの農業・漁業資源を積極的に活用し、ストーリー性のある新たな観光メニューを検討するとともに、かつて農耕馬として島の生活に欠かせない存在だった喜界馬を復活させ、その保存と活用を図ります。



《考えられる具体的施策》

- 地下ダムや一本道，追い込み漁等を組み込んだ観光の推進
- 農業体験を視野に入れた喜界馬の飼育の検討
- 楽しみとしての釣りやスポーツフィッシング等の受け入れ方策の検討

3 農家民泊や農業体験等の受入体制整備

学生やインターンの農業体験等の受入体制の拡充を行うとともに、農家民泊等の推進を図ります。



《考えられる具体的施策》

- 学生やインターンの農業体験等の受入体制整備と民泊、ゲストハウス整備の推進
(村おこしNPO 法人 ECOFF や島キャン等の継続的な受け入れ 等)

基本方針3

自然資源の保全・活用と
広域的な
エコツーリズムの推進

基本施策

- 広域的な連携によるエコツーリズムの推進
- 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

1 広域的な連携によるエコツーリズムの推進

県や奄美群島の各市町村及び広域事務組合等と連携し、世界自然遺産登録や奄美群島国立公園指定等に基づく広域的観光施策に呼応した効果的な取組の実施に努めるなど、奄美群島と一体となったエコツーリズムを推進します。



《考えられる具体的施策》

- ・世界自然遺産登録や奄美群島国立公園等に関する広域的観光施策の効果的活用
(世界自然遺産奄美トレイルのルート整備、奄美群島のエコツーリズム推進に係る取組との連携 等)

2 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

喜界島の豊かで多様な自然資源を生かし、自然体験施設の充実や適切な維持管理の実施、体験型観光メニューの開発等を行うとともに、資源の保護保全と活用のバランスに配慮した適切な観光利用を図ります。



《考えられる具体的施策》

- ・蝶の飛び交う島づくりの推進
(島内全域で「オオゴマダラ」や「アサギマダラ」などの蝶が飛び交う姿が観られるよう、繁殖・観察施設等の充実や喜界島本来の植生の維持を実施 等)
- ・島内の自然資源の維持管理と適切な観光活用のための体制整備
- ・海と陸の自然資源を活用した体験型観光メニューの開発
(陸上から楽しむホエールウォッチング 等)

基本方針4

歴史や文化、
集落景観を生かした
観光の推進

基本施策

- 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用
- 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

1 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用

喜界島に残る美しい景観の保護保全に努めながら、これまで気づかなかった特色ある風景の掘り起こしや島内外への積極的な情報発信を行うなど、島内景観の魅力を高め、周知する取組を進めます。



《考えられる具体的施策》

- ・ 景観計画の策定による良好な景観の維持
- ・ 南国らしい植物等を用いた島内の景観整備の検討
- ・ 集落景観を損なわず、まちあるきを楽しめる安全な歩行空間整備の検討
- ・ 集落景観を構成する石垣や湧水、住宅の庭等の魅力の見直し
(オープンガーデン、ガーデニングツアー等の島内外の人が楽しめる取組の実施 等)
- ・ 美しい村連合加盟団体として島内の魅力ある景観の積極的な情報発信
(「日本でもっとも美しい村連合」に加盟している島内景観の積極的な誘客活動利用 等)

2 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

島に残る個性あふれる伝統行事や祭礼への観光客の参加を通じ住民との交流を推進するとともに、数多く残る歴史的資源および文化財等の観光活用に努めます。

《考えられる具体的施策》

- ・ 集落行事等の伝統行事の継承と観光客との交流による活性化の推進
(ソーメンガブー等の伝統行事への観光客受入れ、個人旅行者を対象とする八月踊り等の集落行事体験の検討)
- ・ 歴史的資源や文化資源を活用した観光スタイルの構築
(あまみシマ博覧会プログラムの旅行商品等への展開 等)

基本方針5

地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

基本施策

- 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上
- ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発
- 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

1 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上

集落間の移動など島内を快適に移動できる環境整備を進めるとともに、集落における観光拠点の整備充実を図りながら集落の魅力向上に努めます。



《考えられる具体的施策》

- ・観光拠点としての集落売店の活用と連携体制の構築
- ・路線バスと連携した島内サイクリング観光の展開
- ・廃校の宿泊施設利用による積極的な観光客受入れ体制の検討
(スポーツ合宿、研修等の誘致による廃校の宿泊施設の稼働率向上 等)

2 ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発

町民一人一人が観光への理解を深め、おもてなし意識の醸成を図るとともに、観光を支える組織や人材の育成を支援します。



《考えられる具体的施策》

- ・よんよ〜り喜界島をはじめとしたガイド組織の後継者育成と活動支援
- ・飲食店や観光客が立ち寄る施設の関係者を対象とするおもてなし意識の醸成
(観光関連事業者への接遇研修の実施 等)

3 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

島内の児童や生徒を対象とする自然・歴史・文化等の学習機会を提供するとともに、観光を通じたまちづくりへの参画を促し、地域に対する誇りや郷土を愛する心を育む取組を行います。

《考えられる具体的施策》

- ・島内の児童や生徒を対象とする自然、歴史、文化等の地域学習の推進
- ・喜界高等学校との連携による生徒の観光施策の研究提案等の実施検討

基本方針6	基本施策
観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備	<ul style="list-style-type: none">● 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築● 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施● 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備● 交通アクセスの利便性と快適性の向上

1 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築

効果的な観光施策の展開を図る観点から、旅行者動向の継続的な把握を行うとともに、島内外の関係者による横断的な観光推進体制の構築を図ります。

《考えられる具体的施策》

- ・島内の横断的な組織による観光推進体制の構築
- ・島内の観光事業者（宿泊、交通等）と連携した旅行者動向の継続的な把握

2 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施

一般観光客と特定目的の来島者へ向けた効果的な観光プロモーションの展開を図るとともに、企業との連携などによる新たな誘客方法を検討します。

《考えられる具体的施策》

- ・一般観光客と特定目的の来島者へ向けた効果的な観光プロモーションの検討（東京での来島者イベント、専門分野向け媒体への情報提供、現状サイトの確認 等）
- ・スポーツ合宿・イベント等の開催や企業との連携による誘客方策の検討（具体的な方策：会員組織を持つアウトドアメーカー、自転車メーカー等今後の喜界島の観光方策と関連のあるメーカーとのタイアップの検討 等）

3 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備

SNSを活用したきめ細やかな情報発信など、多様な情報ニーズに対応できる様々な媒体による情報発信に努めるとともに、来島者に配慮した島内環境の整備を図ります。

《考えられる具体的施策》

- パンフレットやマップ等の制作
- SNS等を活用したきめ細かな情報発信
- 統一された観光案内板や幹線道路状の案内表示，集落名の表示看板等の整備
- 島内 Wi-Fi 整備の促進

4 交通アクセスの利便性と快適性の向上

空港や港湾施設の交通拠点施設としての機能充実を図るとともに、喜界町への交通アクセスの向上に向けた取組を検討します。



《考えられる具体的施策》

- 空港や港湾施設等の交通拠点の機能充実と利便性の向上
(港の旅客待合所の快適性向上、未利用施設の利活用検討 等)
- 交通アクセス向上に向けた取組の推進
(LCC と船を乗り継ぐモデルルートを紹介、冬季の利用促進、奄美大島～喜界島間の不定期航路の検討 等)
- 生活航路を使った旅の快適性の向上
(具体的な方策：船内環境の改善、船内の楽しみ方の紹介や提案 等)
- クルーズ船への対応を考慮した港湾施設の充実

喜界町観光振興計画体系図

基本理念

- 1 島にある様々な資源を活かし、喜界島を知って楽しむ観光をすすめます。
- 2 島の暮らしや人との交流を通じ、行ってみたい島 ～喜界島～ を目指します。
- 3 島を訪れた人と住んでいる人、ひとりひとりが喜界島を広く熱く発信します。

基本方針

〔基本方針1〕

喜界島の特色ある地域資源を活用したアカデミックな観光の展開

基本施策

① 学術的価値の高い資源を利用した観光の取組

② 島内の研究機関等を活用した体験型教育観光の推進

③ 学会や研究会、視察等の誘致

〔基本方針2〕

農業など一次産業と地域の食をつなぐ観光の文脈づくり

① 喜界島の食の魅力向上のための取組の推進

② 農業・漁業を中心としたストーリー性の高い観光方策の検討

③ 農家民泊や農業体験等の受入体制整備

〔基本方針3〕

自然資源の保全・活用と広域的なエコツーリズムの推進

① 広域的な連携によるエコツーリズムの推進

② 自然資源の保護保全と適切な観光利用の推進

〔基本方針4〕

歴史や文化、集落景観を生かした観光の推進

① 集落景観や農業景観など喜界島の特色ある景観の維持と活用

② 歴史的・文化的資源の維持継承と観光活用による活性化の推進

〔基本方針5〕

地域住民が島の魅力を伝える仕組みづくりと人材育成

① 集落めぐりの推進による島全体の魅力向上

② ガイド組織の育成支援と住民への意識啓発

③ 児童生徒の地域学習を通じたまちづくりへの意識醸成

〔基本方針6〕

観光動向を把握した計画的な情報発信と観光基盤の整備

① 観光動向の把握と観光推進のための連携体制の構築

② 効果的な誘客方法の検討とプロモーションの実施

③ 多様な媒体を活用した情報発信や島内環境整備

④ 交通アクセスの利便性と快適性の向上

第5章

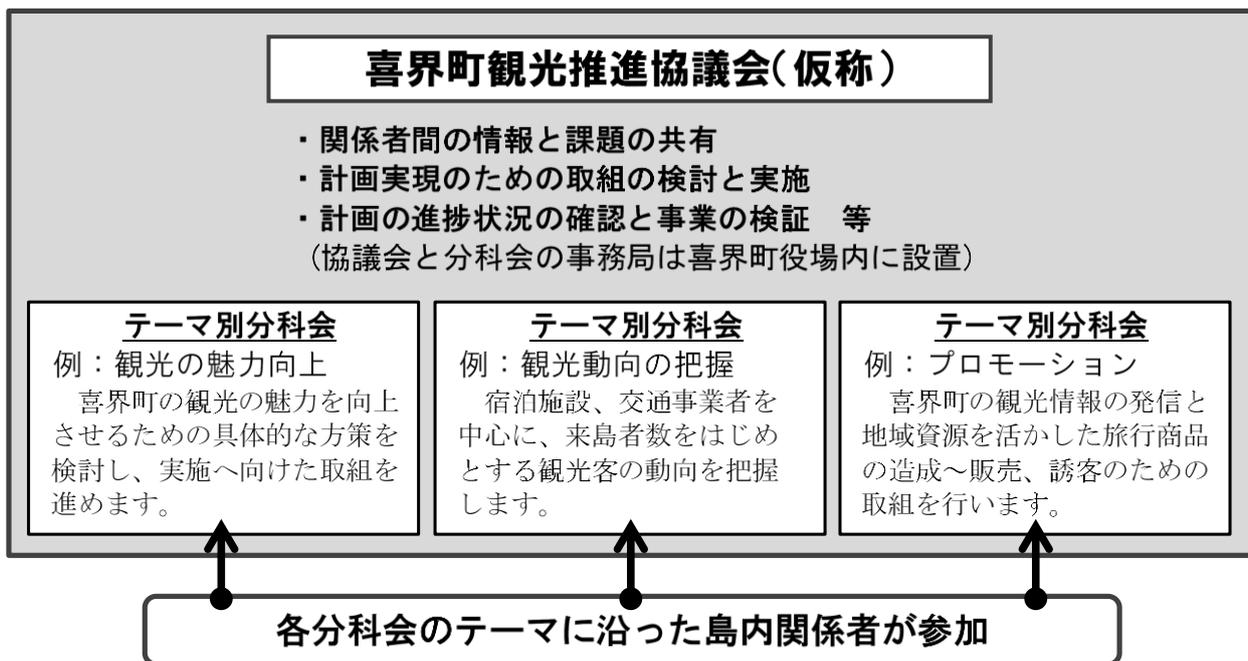
喜界町観光振興計画の実現に向けて

1 推進体制の整備

本計画に基づき、喜界町の観光振興を実現させるためには、宿泊施設等の観光事業者だけでなく、島内の農業・漁業関係者、飲食物販店、観光推進団体や行政機関等とともに、喜界島に住む多くの人々が広く連携し、観光を推進する体制づくりが必要です。

このため、島内の多様な分野の関係者の参画による「喜界町観光推進協議会(仮称)」を設置し、定期的な情報と課題の共有を行うとともに、計画の実現を目的とする具体的な取組の検討と実施、計画の進捗状況の確認や事業の検証を進めるものとします。

(1) 「喜界町観光推進協議会(仮称)」イメージ(案)



(2) 数値目標の設定

本計画で定めた様々な取組を進めるにあたっては、喜界町で観光に関わる全ての人が、明確な目標を共有し、その目標を目指して観光振興につながる活動に関わることが求められます。

設定する目標には、いくつかの考え方がありますが、喜界町の観光振興計画では、喜界島を訪れた人数(入込客数)を計画推進の目安と考え、数値目標として設定しました。

	現状値 (平成25～27年の平均)	目標値 (平成33年)	増加数 増加率
年間入込客数	53,306人	65,000人	11,694 (22%増加)

※入込客数の現状値は、「奄美群島観光の動向(平成27年)」をもとに算出

■ 參考資料 ■

参考資料1 喜界町観光振興計画策定概要

本計画の策定にあたり、広く関係者の意見を反映させるため、策定委員会を設置し、喜界町の観光振興における現状と課題を確認するとともに、課題解決に向けた方策等について検討を行いました。

○ 喜界町観光振興計画策定委員会委員名簿

(順不同、敬称略)

氏名	所属等	分野
嶺 義久	喜界町 副町長	行政
上園田慶太	喜界島観光物産協会 会長	観光推進団体
外内 淳	喜界島観光物産協会 副会長	歴史・文化
東 亮輔	喜界島観光物産協会 事務局長	観光推進団体
体岡 広美	合同会社 喜界島結い 代表	特産品
岩切進一郎	喜界第一ホテル 支配人	観光・宿泊
杉俣紘二郎	喜界島工房 代表	農業・移住
西 徹彰	西商店 店主	集落
山崎 敦子	NPO喜界島サンゴ礁科学研究所 所長	自然資源
藤岡明日香	株式会社奄美航空 勤務	観光・交通
依田 純一	ヨネモリダイビングサービス	観光事業
富 充弘	喜界町役場 企画観光課長	行政

○ 策定経過

第1回	<p>■開催日：平成29年1月10日（火）13:30～15:30／会場：喜界町役場研修室</p> <p>■内 容</p> <ul style="list-style-type: none">① 策定スケジュール等について② 喜界町の観光の取り組み<ul style="list-style-type: none">・ 各種調査結果の経過報告③ 意見交換 喜界島～喜界町の観光の課題と魅力について<ul style="list-style-type: none">・ 調査結果を基に各委員による意見交換を実施
------------	---



第2回	<p>■開催日：平成29年2月6日（月）15:00～17:00／会場：喜界町役場会議室</p> <p>■内 容</p> <ul style="list-style-type: none">① 喜界町観光振興計画骨子（案）について<ul style="list-style-type: none">・ 基本方針や基本施策について協議検討
------------	---



第3回	<p>■開催日：平成29年3月3日（金）17:00～19:00／会場：喜界町役場会議室</p> <p>■内 容</p> <ul style="list-style-type: none">① 喜界町観光振興計画素案について<ul style="list-style-type: none">・ 基本理念及び基本方針，基本施策についての協議検討・ 数値目標についての協議検討・ 計画の推進体制についての協議検討
------------	--



第4回	<p>■開催日：平成29年3月23日（金）17:30～19:00／会場：喜界町役場会議室</p> <p>■内 容</p> <ul style="list-style-type: none">① 喜界町観光振興計画-概要版-（案）について<ul style="list-style-type: none">・ 計画書案についての最終協議
------------	---

○ 設置要綱

喜界町観光振興計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 交流人口の拡大による地域活性化に向けて、中長期的な視点での観光振興施策の指針となる喜界町観光振興計画を策定し、観光振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、喜界町観光振興計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 喜界町観光振興計画の策定に関する事項
- (2) その他喜界町観光振興計画の策定に関し必要な事項

(組織等)

第3条 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

- 2 委員は、町民及び有識者のうちから町長が委嘱する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は、委員のうちから互選する。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。ただし、委員長が選任されていない場合は、町長が招集する。

- 2 委員長は、会議の議長となり、議事を整理する。
- 3 委員長が必要があると認めるときは、委員以外の専門家に対し出席を求め、又は事務局から意見聴取を実施させることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、企画観光課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年12月12日から施行する。

参考資料2 各種アンケート調査票

喜界町を訪れた特定の目的を持つ観光客と一般の観光客を対象に、アンケート調査を実施しました。

○ 特定目的の観光客向けアンケート調査票

喜界島の観光振興に関するアンケート調査票(丸の内朝大学フィールドワーク参加者)

このアンケート調査は「喜界町観光振興計画策定事業」の一環として、喜界島にご来島のお客様に、今後の喜界島の観光振興を目的にご協力をお願いしています。

お客様が喜界島でどのような時間を過ごし、どのような魅力を感じたのかをお教えてください。また、快適な観光のために、改善すべき点やご不満を感じたところについてもご意見をお願いいたします。

Q1 お客様について教えてください。

- 性別: ①男 ②女
- お住まい: (_____ 都道府県)
- ご出身: ①喜界島 ②喜界島以外の奄美群島 ③(_____ 都道府県)
- ご年齢: ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上
- ご職業: ①自営業 ②会社員 ③公務員 ④パート・アルバイト ⑤主婦 ⑥学生
⑦その他(_____)

Q2 今回のご旅行について教えてください。

- 喜界島へのご来訪経験: ①今回が初めて ②ある(過去 _____ 回くらい)
- 今回の宿泊(予定)数: ①1泊 ②2泊 ③3泊 ④4泊以上(_____ 泊)
- 今回の旅行旅代金総額: ①5万円未満 ②5万～10万円未満 ③10万～15万円未満 ④15万円～
- 今回の来島経路: ①鹿児島から飛行機 ②奄美大島から飛行機 ③鹿児島から船 ④奄美大島から船
- また喜界島に来島したいと思いますか?
①是非また来たい ②また来たい ③機会があればまた来たい ④来たくない ⑤移住したい

Q3 お客様のご旅行頻度と旅行情報の入手方法をお教えてください。

- 年間のご旅行頻度: ①年1～2回 ②半年に1～2回 ③2～3か月に1～2回 ④1か月に1～2回
⑤上記以外: おおよそ _____ 回程度
- 旅行の情報入手方法: ①本や雑誌 ②新聞 ③旅行雑誌 ④TVの旅行番組 ⑤友人のクチコミ
⑥旅行会社のパンフレット ⑦旅行会社のサイト ⑧観光協会のサイト ⑨観光協会のSNS(twitter等)
⑩自治体のサイト ⑪自治体のSNS ⑫旅行のクチコミサイト(tripadvisor等) ⑬個人のブログ
⑭物産展やPRイベント ⑮その他(_____)

Q4 喜界島を知ったきっかけをお教えてください。

- 丸の内朝大学「古代遺跡発掘クラス in 喜界島」にご参加以前から喜界島をご存知でしたか?
①喜界島のご出身
②来たことがあり知っていた
→ 以前のご来島目的: a.観光 b.仕事 c.調査研究 d.その他(_____)
③来たことはないが知っていた
→ 喜界島を知った媒体: a.本や雑誌、新聞 b.TV番組や映画 c.旅行ガイドや旅行雑誌
d.インターネットのサイト(サイト名 _____) e.友人知人のクチコミ
f.その他(_____)
④知らなかった

Q5 今回のご旅行の満足度と喜界島で楽しみたいことをお教えてください。

1. フィールドワークの満足度をお教えてください。(該当するもの1つに○)

- ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④やや不満 ⑤不満 ⑥非常に不満

●ご意見、ご感想(_____)

2. 夜のお食事の満足度をお教えてください。(該当するもの1つに○)

- ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④やや不満 ⑤不満 ⑥非常に不満

●ご意見、ご感想(_____)

3. 廃校活用の宿泊施設の満足度をお教えてください。(該当するもの1つに○)

- ①非常に満足 ②満足 ③やや満足 ④やや不満 ⑤不満 ⑥非常に不満

●ご意見、ご感想(_____)

4. 期待したものと比べた今回のご旅行の満足度をお教えてください。(該当するもの1つに○)

- ①期待したものより楽しかった ②期待どおりのものだった

- ③期待したものより楽しなかった

→楽しなかった理由(_____)

5. 今後、喜界島で楽しみたいことはどのようなことですか？(該当するもの全てに○)

- ①海のレジャー(釣り、ダイビング等) ②エコツアーや自然体験 ③集落散策やまち歩き
④歴史探訪(遺跡や戦跡の見学等) ⑤黒糖焼酎の酒蔵見学 ⑥農業体験 ⑦集落行事への参加
⑧民泊体験 ⑨郷土料理を食べる ⑩特産品の買い物 ⑪サイクリング ⑫レンタカーでドライブ
⑬何もせずのんびり ⑭その他(_____)

6. 今後の喜界島の観光振興についてどのようなことが求められると思いますか？

その他、ご意見・ご感想などあれば、ご記入ください。

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

○ 一般の観光客向けアンケート調査票

喜界島の観光振興に関するアンケート調査票

このアンケート調査は「喜界町観光振興計画策定事業」の一環として、喜界島にご来島のお客様に、今後の喜界島の観光振興を目的にご協力をお願いしています。

お客様が喜界島でどのような時間を過ごし、どのような魅力を感じたのかをお教えてください。また、快適な観光のために、改善すべき点やご不満を感じたところについてもご意見をお願いいたします。

Q1 お客様についてお教えてください。

- 性別：①男 ②女
- お住まい：（ _____ 都道府県）
- ご出身：①喜界島 ②喜界島以外の奄美群島 ③（ _____ 都道府県）
- ご年齢：①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代 ⑥60代 ⑦70代 ⑧80代以上
- ご職業：①自営業 ②会社員 ③公務員 ④パート・アルバイト ⑤主婦 ⑥学生
⑦その他（ _____ ）
- ご同行者の有無：①1人(同行者なし) ②（ _____ ）人 → 家族、夫婦、友人、職場の同僚、その他

Q2 今回のご旅行についてお教えてください。

- 喜界島へのご来訪経験：①今回が初めて ②ある(過去 _____ 回くらい)
- ご来訪の目的：①観光 ②仕事 ③帰省 ④その他（ _____ ）
- 今回の宿泊(予定)数：①1泊 ②2泊 ③3泊 ④4泊以上（ _____ 泊）
- 今回の旅行旅代金総額：①5万円未満 ②5万～10万円未満 ③10万～15万円未満 ④15万円～
- 今回の来島経路：①鹿児島島から飛行機 ②奄美大島から飛行機 ③鹿児島島から船 ④奄美大島から船
- また喜界島に来島したいと思いますか？
①是非また来たい ②また来たい ③機会があればまた来たい ④来たくない ⑤移住したい

Q3 お客様のご旅行頻度と旅行情報の入手方法をお教えてください。

- 年間のご旅行頻度：①年1～2回 ②半年に1～2回 ③2～3か月に1～2回 ④1か月に1～2回
⑤上記以外: おおよそ _____ 回程度
- 旅行の情報入手方法：①本や雑誌 ②新聞 ③旅行雑誌 ④TVの旅行番組 ⑤友人のクチコミ
⑥旅行会社のパンフレット ⑦旅行会社のサイト ⑧観光協会のサイト ⑨観光協会のSNS(twitter等)
⑩自治体のサイト ⑪自治体のSNS ⑫旅行のクチコミサイト(tripadvisor等) ⑬個人のブログ
⑭物産展やPRイベント ⑮その他（ _____ ）

Q4 今回の過ごし方とご不満な点、喜界島で楽しみたいことをお教えてください。

- 今回の過ごし方：①海で過ごす(釣り、ダイビング等) ②集落散策 ③歴史探訪(遺跡や戦跡の見学等)
④農業体験 ⑤黒糖焼酎の酒蔵見学 ⑥サイクリング ⑦友人宅訪問 ⑧買い物や飲食を楽しむ
⑨レンタカーでドライブ ⑩何もしないでのんびり ⑪その他（ _____ ）
- 不満や改善してほしいこと: _____
- 喜界島で楽しみたいこと：①海のレジャー ②民泊体験 ③エコツアーや自然体験 ④郷土料理
⑤集落行事への参加 ⑥その他（ _____ ）

その他のご意見・ご感想

アンケート調査へのご協力ありがとうございました。

参考資料3 集落資源調査リスト

喜界町内の全集落を対象に、集落資源調査を行いました。

所在地	資源名	分類
特定 集落外	百之台公園	公園・景勝
	ポイント211(七島鼻)	公園・景勝
	テーブルバンタ	公園・景勝
	ハワイビーチ	公園・景勝
	サトウキビ畑の一本道	集落景観
所在地	資源名	分類
湾 集 落	節句(しく)	集落行事
	号対抗グランドゴルフ大会	集落行事
	八月踊り	集落行事
	千丁祝	集落行事
	御殿(ウドン)の鼻(金刀比羅宮)	史跡
	俊寛僧都の墓	史跡
	村田新八修養之地の石碑	史跡(私有地内)
	浄真寺	宗教施設
	日本キリスト教団喜界教会	宗教施設
	地下ダム	農業インフラ
	掩体壕	史跡
	その他の資源	戦跡等
赤 連 集 落	号対抗グランドゴルフ大会	集落行事
	豊年祭	集落行事
	集落運動会	集落行事
	薙刀踊りとヤットセイ	踊り
	集落ソング「村は赤連」	歌
	仮屋の跡	史跡
	安達征一郎文学碑	史跡
	高千穂神社 招魂碑	宗教施設
	湾港緑地と旅客待合所	公園・景勝
	敬老会	集落行事
中 里 集 落	立毛品評会	集落行事
	マーターテーパー	集落行事
	ソーメンガブー	集落行事
	49歳の祝	集落行事
	「フユンミー」と「もちもらい」	集落行事
	集落ソング「中里復興歌」	歌
	戦闘指揮所	史跡
	旧海軍航空基地戦没者慰霊之碑	史跡
	巖部隊二番機殉難供養塔	史跡
	空港臨海公園	公園・景勝
	スギラビーチ	公園・景勝
	荒木中里遊歩道(夕陽の散歩道)	散策路
荒 木 集 落	新年拝賀式新年会	集落行事
	敬老会	集落行事
	9月19日祭	集落行事
	保食神社	宗教施設
	うりばま公園	公園・景勝
	オオゴマダラ園	公園・景勝
	荒木中里遊歩道(夕陽の散歩道)	散策路
	荒木海岸の植物群(荒木海岸国定公園)	自然資源
	荒木簡易郵便局	公共機関

所在地	資源名	分類
手久津久集落	敬老会	集落行事
	集落運動会	集落行事
	朝戸神社	宗教施設
	花尾神社	宗教施設
	手久津久港	インフラ施設(漁港)
	崩り(くずり)遺跡	史跡
	集落内の泉	自然資源
	ガジュマル巨木	自然資源
	ソーランサー公園	公園・景勝
	旧大和製糖の煙突	ランドマーク
(上西、上中、上東) 上嘉鉄集落	盆踊り	集落行事
	敬老会	集落行事
	豊年祭り	集落行事
	集落対抗ソフトボール大会	集落行事
	島立て	伝説・伝承
	崖墓(ムヤ)	史跡
	しつる崎灯台	インフラ施設(海上交通)
	保食神社	宗教施設
	山川(ヤンガー)	自然資源
	湧水地(ウッカア)	自然資源
先山・浦原集落	金久(はにいく)公園	公園・景勝
	フナンデー石	伝説・伝承
	六月灯(ドゥンガンドー)	集落行事
	ジュウゴンチウンミ	集落行事
	ニジュウゴンチウンミ	集落行事
	ドゥンガー(感謝祭)	集落行事
	フユンミ	集落行事
	敬老会	集落行事
	水神社(先山・浦原)	宗教施設
	保食神社	宗教施設
	こーえんはな公園	公園・景勝
	ハニヤー	自然資源
	ユッシイ	自然資源
タイモ、フワリ(タイモの茎)	特産品	
川嶺集落	六月灯	集落行事
	念辻遊び	集落行事
	松尾神社豊年祭(島遊び)	集落行事
	松尾神社	宗教施設
	保食神社	宗教施設
	観音神社(ドゥンマ)	宗教施設
	念辻公園	公園・景勝
	戦跡(トーチカ)	史跡
城久集落	六月灯(ドゥンガンドー)	集落行事
	島遊び	集落行事
	ウヤンコー	集落行事
	保食神社祭	集落行事
	八幡神社と公園	公園・景勝
	トゥヌムトゥ公園とハンジャー(お祭り広場)	公園・景勝
	旧公民館跡地の公園	公園・景勝
	城久遺跡群	史跡
島中集落	その他	伝説・伝承
	年賀式	集落行事
	敬老会	集落行事
	六月灯	集落行事
	シバサシー	集落行事
	ハンカメー遊び	集落行事
	み(い)の日祭り	集落行事
	保食神社	宗教施設
	水神社	宗教施設
	ハンカメー公園	公園・景勝
ウフヤグチ鍾乳洞	自然資源	

所在地	資源名	分類
滝川集落	山祝い	集落行事
	イジマー	集落行事
	六月灯	集落行事
	保食神社祭(ハンタ遊び)	集落行事
	豊年祭	集落行事
	ウヤンコー	集落行事
	保食神社	宗教施設
	民家の高倉と井戸	集落景観(個人宅)
	滝川の泉	自然資源
	ナナテイガマ	自然資源
池治集落	年賀式	集落行事
	敬老会	集落行事
	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	ウヤンコー(高祖祭)	集落行事
	生和糖業工場	産業施設
	池治海水浴場	公園・景勝
	池治グラウンド	公園・景勝
	サンゴの石垣	集落景観
中間集落	敬老会	集落行事
	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	亥(い)の日祭り	集落行事
	シバサシー	集落行事
	中間なでめらびの石碑	史跡
	住吉神社	宗教施設
	ウリガー	自然資源
	ミンドマイ	自然資源
	トロの道	集落景観
	サンゴの石垣	集落景観
羽里集落	六月灯	集落行事
	保食神社祭	集落行事
	豊年祭	集落行事
	ウヤンコー(高祖祭)	集落行事
	保食神社	宗教施設
	ウッカー(共同井戸)	自然資源
	集落グラウンド	公園・景勝
中熊・先内集落	六月灯(ドゥンガンドー)	集落行事
	住吉神社六月灯	集落行事
	シバサシー	集落行事
	豊年祭(シマ遊び)	集落行事
	敬老会	集落行事
	ウリガー(ウリハー)	自然資源
	マルバチシャノキ	自然資源
	保食神社	宗教施設
	宮原山	自然資源
鳥の山公園	公園・景勝	
西大目朝集落・	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	シバサシー	集落行事
	水神祭	集落行事
	水神祭及び豊年祭	集落行事
	朝戸ウッカー	自然資源
	西目ウッカー	自然資源
	松尾神社	宗教施設
	水神社	宗教施設
大朝戸展望台	公園・景勝	

所在地	資源名	分類
坂嶺・伊砂集落	六月灯	集落行事
	シバサシー	集落行事
	豊年祭(島遊び)	集落行事
	敬老会	集落行事
	浜下り(ハマリー)	集落行事
	大綱「エンヤンサー」	集落行事
	坂嶺保食神社	宗教施設
	ため池	インフラ施設
	ヒカゲヘゴ(ソウズの神山)	自然資源
	ウスハマとタネトウイ	自然資源
	サンゴの石垣	集落景観
伊実久集落	六月灯	集落行事
	シバサシー	集落行事
	豊年祭	集落行事
	敬老会	集落行事
	巖島神社	宗教施設
	スンニャンハー(ウカッア)	自然資源
	下田の滝	自然資源
	グローリー牧場	畜産農家
	宮城県気仙沼市からの漂流船	その他の資源
(前金久、神宮) 小野津集落	元旦八幡神社参拝	集落行事
	戦没者慰霊祭	集落行事
	シバサシー	集落行事
	サンセットライブ	集落行事
	小野津盆踊り	集落行事
	十五夜祭り	集落行事
	八幡神社	宗教施設
	ムチャ加那公園	公園・景勝
	小野津漁港公園(海水浴場)	公園・景勝
	東経130度子午線モニュメント	公園・景勝
	雁股の泉	自然資源
	地域文化等宿泊体験施設	宿泊施設
(東部、桶南部) 志戸桶集落	豊年祭り	集落行事
	志戸桶親子運動会	集落行事
	シバサシー	集落行事
	六月灯	集落行事
	戦没者慰霊祭	集落行事
	敬老会	集落行事
	芭蕉句碑	史跡
	保食神社	宗教施設
	天満宮	宗教施設
	平家上陸之地	公園・景勝
	上川(ウィガー)	自然資源
	トンビ崎灯台	インフラ施設(海上交通)
	七城跡	伝説・伝承
佐手久集落	六月灯・豊年祭	集落行事
	全集落グランドゴルフ大会	集落行事
	大晦日祭	集落行事
	ヒグラー貰い	集落行事
	保食神社	宗教施設
	米須里之子の墓(ナハウヤフジ)	史跡
	ウンダンメー	史跡
	未知の駅	その他の資源
塩道集落	六月灯	集落行事
	権現宮・港祭	集落行事
	シバサシー	集落行事
	二十四日祭	集落行事
	権現宮・高千穂神社	宗教施設
	塩道長浜公園	公園・景勝
	早町漁港の待合所	交通拠点
	塩道長浜伝説	伝説・伝承

所在地	資源名	分類
早町集落	六月灯	集落行事
	集落グラウンドゴルフ大会	集落行事
	冬折目(フユンミ)	集落行事
	シバサシー	集落行事
	敬老会	集落行事
	八月豊年祭	集落行事
	平家森	伝説・伝承
	涙石	史跡
	震洋格納壕跡	史跡
	早町港	インフラ施設(港湾)
	港周辺の倉庫と町並み	集落景観
	白水集落	六月灯
シバサシー・シチャミ		集落行事
豊年祭		集落行事
敬老会		集落行事
保食神社		宗教施設
勝連家石碑		史跡
琉球式石垣の屋敷跡		集落景観
ミツチュ		自然資源
トカチン(イソマグロ)漁		伝統漁法
嘉鈍集落	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	敬老会	集落行事
	ウヤンコー	集落行事
	馬頭神社	宗教施設
	保食神社	宗教施設
	巨大ソテツ	自然資源
	百之台	公園・景勝
阿伝集落	敬老会	集落行事
	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	わらべ唄子供エイサー	郷土芸能
	さんごの石垣	集落景観
	七十七曲がり登山道	古道
	岩倉市郎顕彰碑	史跡
	阿伝ふれあい公園	公園・景勝
	末吉神社	宗教施設
	アカテツ群	自然資源
蒲生・花良治集落	新年会・敬老会	集落行事
	六月灯	集落行事
	豊年祭	集落行事
	ウヤンコー	集落行事
	天降(あまくだり)神社	宗教施設
	羽衣伝説	伝説・伝承
	高尾神社	宗教施設
	花良治教会	宗教施設
	アサギマダラ越冬地	自然資源
	夫婦ガジュマル	自然資源
	中西公園	公園・景勝
花良治ミカン	特産品	

喜界町観光振興計画

平成29年3月

喜界町

〒891-6292

鹿児島県大島郡喜界町

大字湾 1746 番地

tel:0997-65-1111

